

# 事業概要

— 令和7年度版 —

社会福祉法人 青い鳥  
横須賀市療育相談センター

## はじめに

横須賀市療育相談センターは、横須賀市の直営で行われてきた療育事業を拡大発展する形で、2008年4月にオープンした本市唯一の療育センターです。設置者は横須賀市ですが、運営は指定管理者の社会福祉法人青い鳥が行う「公設民営」方式です。

2024年4月から、3期目10年間の指定管理が始まりました。診療所、児童発達支援センター（通園部門）、相談支援事業などから構成され、常勤・非常勤合わせて100名前後のスタッフで、横須賀市の18歳未満の発達に心配のあるお子さんの支援をしています。

日本のどこでもそうですが、発達障害の比率があまりに高く、療育センターだけでその発達を支えることは困難です。子どもに関わる全ての大人達、つまり、家族、健康福祉センター、幼稚園・こども園・保育園、学校、児童相談所、医療機関、児童発達支援事業所など、福祉・教育・医療の垣根を越えて、地域全体で子どもたちの発達が保証されることが大切です。

支援の究極のゴールは支援がなくなることです。正確に言うと、発達に心配のある子どもたちとその家族が、必要な支援を自給自足できるようになることです。そのために、これからも療育センターは、関係する皆様と連携しつつ、子どもたちの発達を支えていきます。

いつか、横須賀市のすべての場所で、どんな子どもでも発達が担保され、その子その子に見合った社会参加ができるようになり、みんなに笑顔が生まれることを祈っています。

引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和8年早春

社会福祉法人青い鳥  
横須賀市療育相談センター  
所長 広瀬 宏之

## 横須賀市療育相談センターの運営方針

横須賀市療育相談センターは横須賀市にお住いの発達の遅れや障害のあるお子さん、発達に不安のあるお子さんを対象としたセンターです。

乳幼児期から就学前までのお子さんには療育相談・診療・訓練・各種教室や通園支援を行い、就学後から概ね18歳までのお子さんには療育相談・診療・訓練を行います。

利用されるお子さんご家族が安心して生活できるように、以下の三つの基本理念に沿って療育を行うとともに、地域における様々な療育活動を支援します。

### 基本理念

- 1、子どもと家族によりそい、心あたたまる療育を提供します。
- 2、時代に先んじた、専門性の高い療育を提供します。
- 3、横須賀に根ざし、地域とともにある療育を提供します。

人間が人間にかかわるという原点を忘れないようにしたいと思います。どんなに技術が進んでも人間にまさる癒し手はありません。全ての生物に備わっているはずの「利他の精神」を第一に考えたいと思います。

発達障害の概念や知識は日進月歩の勢いで変化しています。発達障害を医学の力で完全に治すことはまだできませんが、それでも、彼ら・彼女たちの生活の困難さを少しでも和らげることのできるよう、そして、我々の日々の仕事がルーチンに陥らないよう、専門性を追及し続けたいと思います。

いまや、発達障害の比率は人口の1割に及びます。もっとも大切なことは、療育相談センターだけですべてが完結するのではない、ということです。子どもたちを取り巻く全ての人々が、彼ら・彼女たちの特徴を理解し、それに見合った関わりをしていってもらえるよう、微力ながらお手伝いしたいと思います。

# 目 次

はじめに

横須賀市療育相談センターの運営方針・基本理念

## I 施設の概要

1. 施設の概要 ..... 1
2. 建物平面図 ..... 3
3. 組織図 ..... 5
4. 横須賀市療育相談センター利用の基本的流れ ..... 6

## II 業務の内容

- 概 況 ..... 7
- 令和 6 年度の主な実績 ..... 8
1. 地域生活支援部門 ..... 11
  2. 診療部門 ..... 16
    - (1) 診療室 ..... 16
    - (2) 心理 ..... 19
    - (3) 理学療法 ..... 22
    - (4) 作業療法 ..... 24
    - (5) 言語聴覚療法 ..... 26
    - (6) 摂食外来 ..... 28
    - (7) 補装具外来 ..... 29
    - (8) かもめグループ・すずらんグループ ..... 30
  3. 通園部門 ..... 31
  4. 管理部門 ..... 38
  5. そ の 他 ..... 42
    - (1) 学会発表、講演、論文 ..... 42
    - (2) 所内研修 ..... 43
    - (3) 視察・見学者等の受入れ状況 ..... 44

## III 資料編

1. 社会福祉法人青い鳥の沿革 ..... 46
2. 役員名簿 ..... 55

# I. 施設の概要

# 1. 施設の概要(令和7年4月1日現在)

(1) 所在地 神奈川県横須賀市小川町16番地

(2) 対象エリア 横須賀市

(3) 利用対象 発達の遅れや障害のあるお子さんとそのご家族

(4) 施設内容

①診療所：小児精神科・小児神経内科、小児科、耳鼻いんこう科、  
リハビリテーション科、小児歯科（摂食外来）

②通園施設（ひまわり園）：医療型児童発達支援センター 定員40人  
福祉型児童発達支援センター 定員50人

(5) 施設機能

①地域生活支援部門：障害児の療育に関する相談（外来相談、電話相談、巡回相談）  
他機関との連携

（健康福祉センター、児童相談所、こども家庭支援課、幼稚園・  
保育園、こども園、学校等）

各種教室の開催（親子教室、早期療育教室、療育教室）

②診療部門：発達の遅れや障害のあるお子さんに対する相談・検査・診療と専門職による  
訓練等の個別及びグループでの支援（心理、理学療法、作業療法、言語  
聴覚療法など）

③通園部門：障害に配慮しながら、健康な身体・基本的な生活習慣・豊かな人間関係育  
成のために、個別療育目標を作成し、一人ひとりのお子さんに応じた療育  
支援

④管理部門：施設管理及び人事労務、会計処理、栄養管理及び相談・指導

(6) 配置職員

①地域生活支援部門：ソーシャルワーカー（SW）、保育士、児童指導員、事務員

②診療部門：医師、看護師、心理士、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、  
言語聴覚士（ST）、臨床検査技師

③通園部門：保育士、児童指導員

④管理部門：事務員、医療事務員、栄養士

(7) 建物概要

①規模・構造：施設面積 4,226.85㎡

延床面積 8,684.37㎡

構造 鉄筋コンクリート造

規模 地下1階、地上5階、塔屋1階

- ②施設内容 : 1階 保育室(12)、遊戯室、家族研修室、水治療室、相談室、  
医務室、託児室、ラウンジほか  
2階 職員室  
4階 診察室(3)、相談室(3)、会議室、観察室(2)、脳波検査室、  
聴力検査室、生活訓練室(3)、言語室(2)、心理室(3)、  
運動療法室(6)ほか
- ③その他 : 1階 横須賀市役所 民生局こども家庭支援センター  
3階 横須賀市役所 民生局こども家庭支援センター  
5階 横須賀市役所 民生局福祉こども部、こども家庭支援センター

(8) 設置運営 設置主体：横須賀市  
運営主体：社会福祉法人青い鳥

(9) 開 所 : 平成 20 年 (2008 年) 4 月 1 日

「はぐくみかん」の施設設備

階	施設名 〔療育相談センターの施設構成〕	
5	民生局福祉こども部、こども家庭支援センター	
4	療育相談センター 診療部門・地域生活支援部門(1,230 m <sup>2</sup> )	診察室(3)、相談室(3)、会議室 観察室(2)、脳波検査室、聴力検査室 生活訓練室(3)、言語室(2)、心理室(3) 運動療法室(6)ほか
3	民生局こども家庭支援センター	
2	療育相談センター事務所(433 m <sup>2</sup> ) 〔職員室〕	
1	民生局こども家庭支援センター	療育相談センター通園部門(1,388 m <sup>2</sup> ) 保育室(12)、遊戯室、家族研修室、 水治療室、相談室、医務室、託児室、 ラウンジ ほか

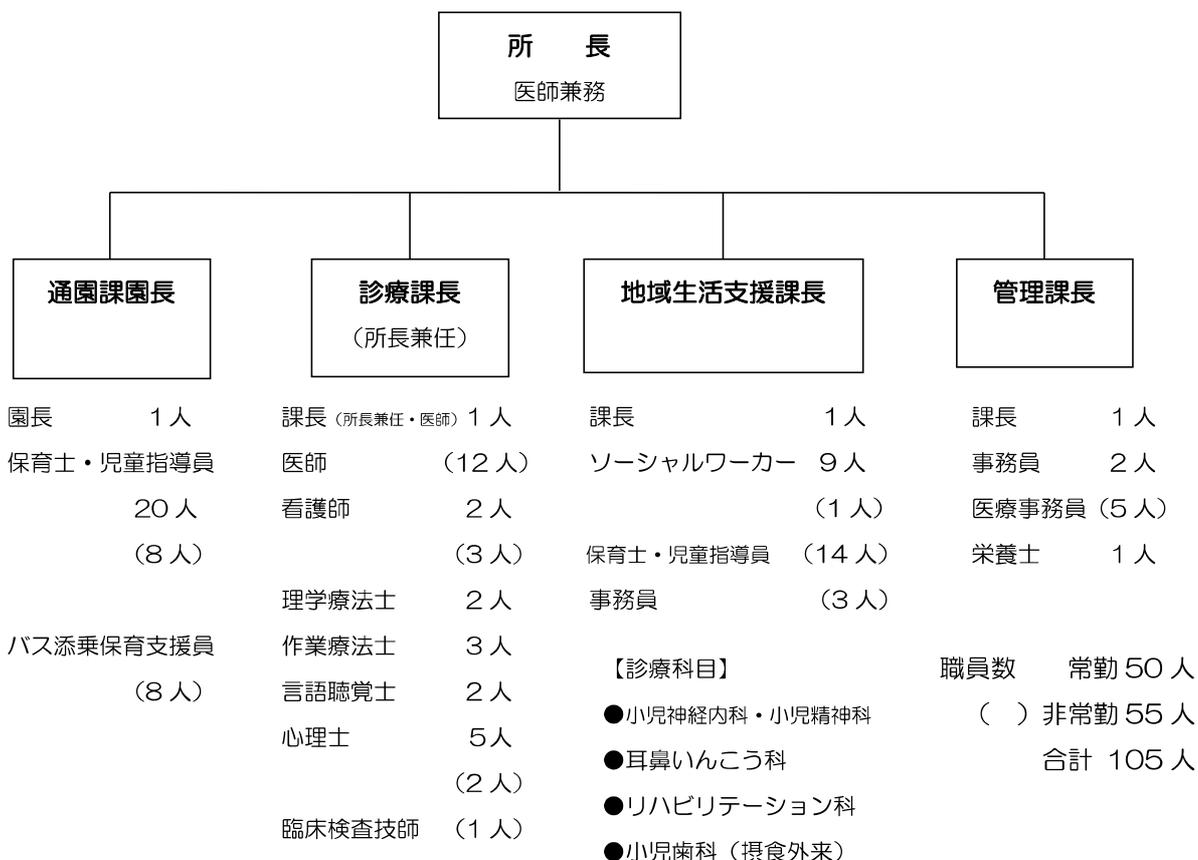
※療育相談センター専有面積 3,051 m<sup>2</sup>(はぐくみかん延床面積 8,684 m<sup>2</sup>)



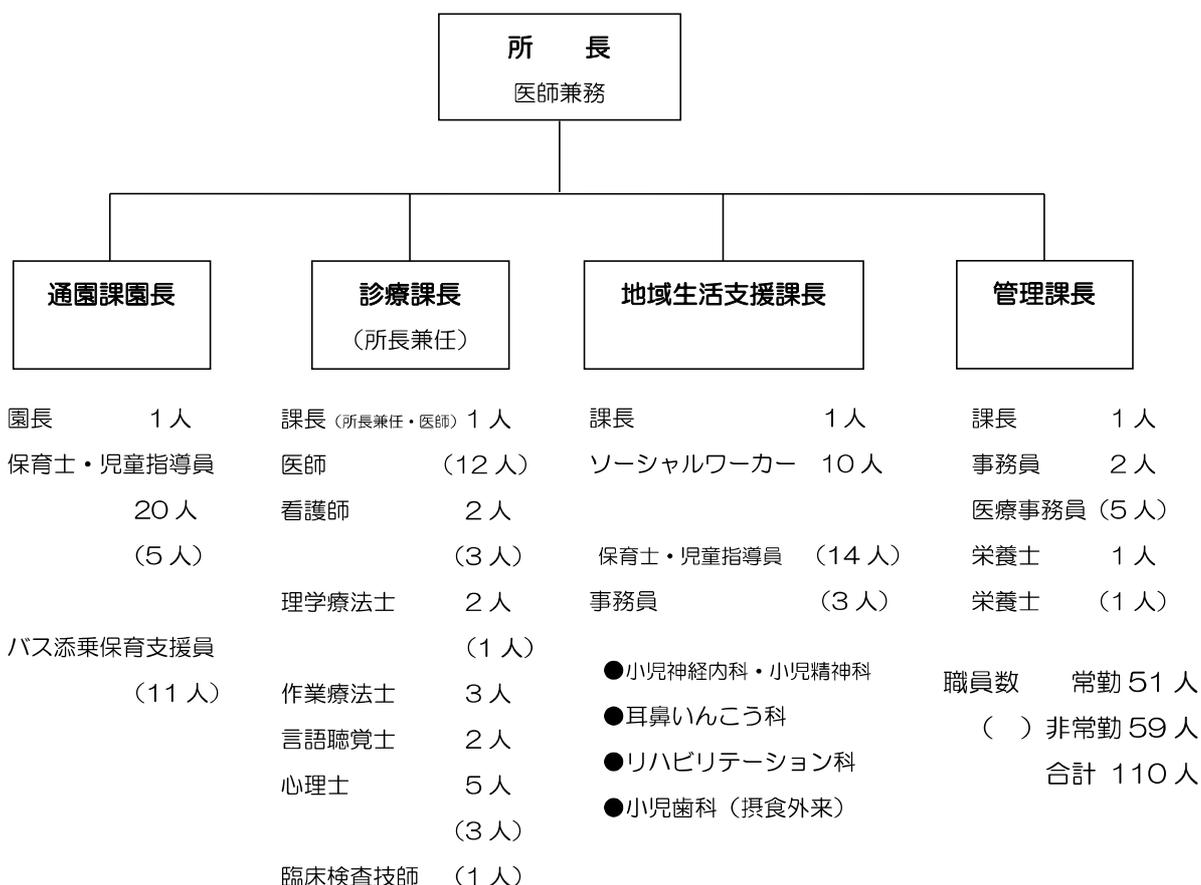


### 3. 組織図

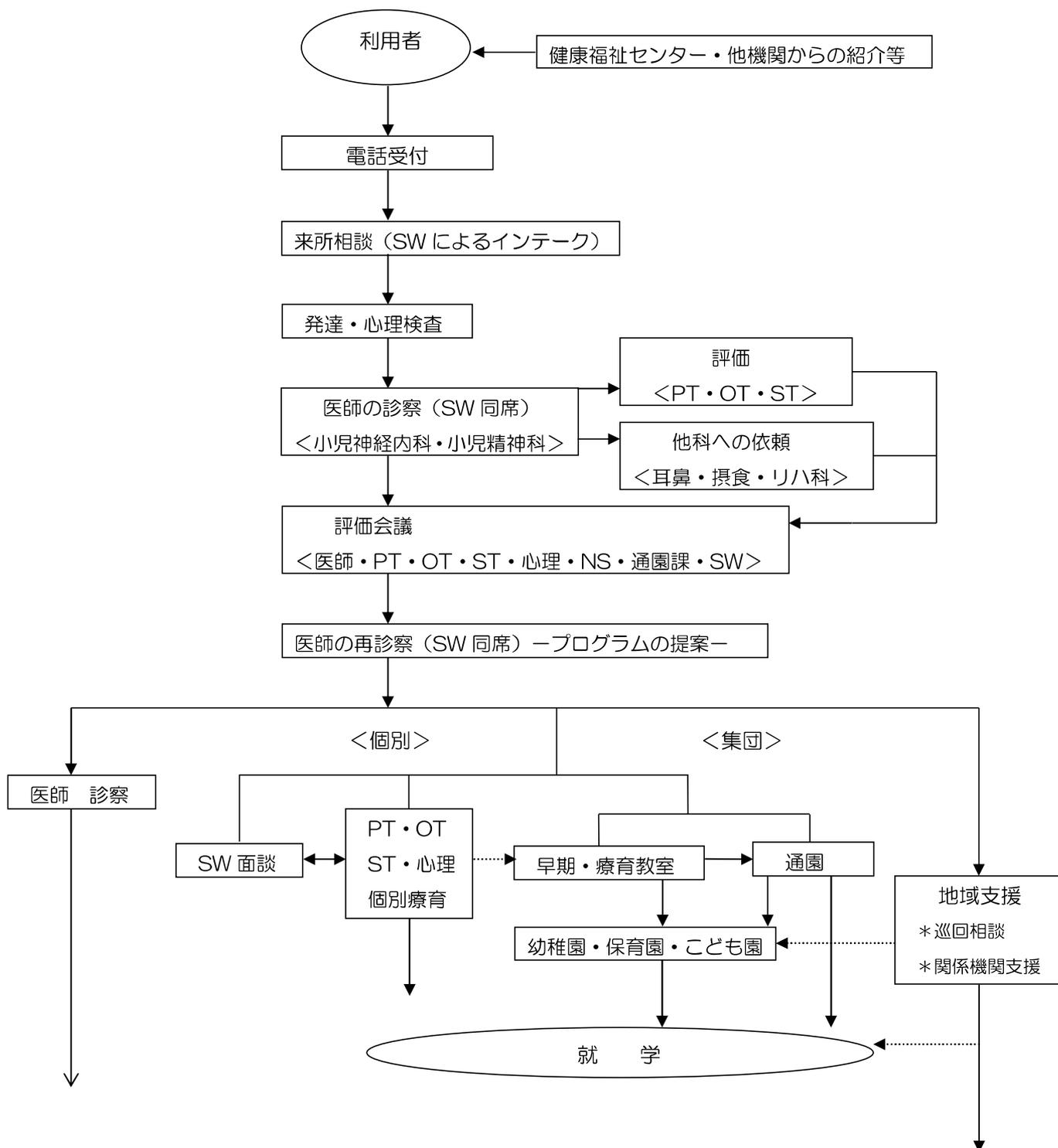
令和6年度 横須賀市療育相談センター組織図 令和6年4月1日現在



令和7年度 横須賀市療育相談センター組織図 令和7年4月1日現在



## 4. 横須賀市療育相談センター利用の基本的流れ



医師診察を基本とした相談の継続（17歳まで）

## Ⅱ. 業 務 の 内 容

(令和6年度実績)

## 概 況

令和6年度の主な実績が8ページから10ページまでに記されております。その後、11ページから各部門の報告が記されています。

令和6年度は常勤・非常勤あわせて110人のスタッフでスタートしました。

診療部門では初診が942人、再診も合わせると、のべ11,295人の訓練・診療を行いました。

通園部門（ひまわり園）では医療型児童発達支援センター7人、福祉型児童発達支援センター94人、合計101人の在籍で、利用のべ人数は6,902人でした。

地域生活支援部門での相談は、のべ7,409件でした。親子教室、早期療育教室・療育教室の参加者は、のべ2,819人でした。

当センターでは従来通り、関係各機関と連携しながらより中身の濃い療育を行ってきました。巡回相談は、のべ339件に及んでいます。

相談支援事業では、サービス等利用計画の作成件数は539件、モニタリングは816件に上りました。

全国的にみて、ほとんどの療育センターは幼児期中心の支援ですが、当センターでは18歳未満までが対象です。初診の半数以上が小学校以降のお子さんです。学校からのご紹介も常となっています。

関係機関との連携もより緊密にしつつ、横須賀市が全ての子どもたちにとって暮らしやすい地域になるよう、支援していきたいと思っております。

## 令和6年度の主な実績

### (1) 診療部門

#### ①診療件数

表1

合計	初診	再診
12,237	942	11,295

#### ②診療科目別受診者数内訳

表2

診療科目	合計	初診	再診
小児精神・神経科	6,707	942	5,765
耳鼻いんこう科	30	0	30
リハビリテーション科	271	0	271
小児歯科（摂食外来）	127	0	127
心理療法	1,632	0	1,632
理学療法	997	0	997
作業療法	1,348	0	1,348
言語聴覚療法	968	0	968
外来患者の看護及び診療介助	154	0	154
臨床検査	3	0	3
合計	12,237	942	11,295

#### ③新規ケースの年齢別内訳

表3

年齢	人数	%
未就学児（0～5歳）	348	36.9%
学齢児（6～17歳）	594	63.1%
合計	942	100%

### (2) 通園部門

#### ①施設別在籍児童数

表4

施設名	在籍児童数	のへ通園児童数
医療型児童発達支援センター	7	303
福祉型児童発達支援センター	94	6,599
合計	101	6,902

※在籍児童数は、令和7年3月末時点

(3) 地域生活支援部門

①相談別件数内訳

表5

相談別件数	合計	新規相談	再相談
電話相談	4,898	613	4,285
来所相談	1,568	587	981
教室での会場相談	799	97	702
居宅訪問	144	0	144
合計	7,409	1,297	6,112

\*居宅訪問は平成25年7月から開始。

②保護者の同意による巡回相談訪問先施設

表6

訪問先施設	合計	幼稚園	保育園	こども園	学校	特別支援学校	家庭訪問	その他
訪問回数	224	54	51	74	35	1	0	9
のべ相談件数	273	60	56	102	43	1	0	11

③施設へのコンサルテーションを目的とした巡回相談訪問先

表7

訪問先施設	合計	幼稚園	保育園	こども園	学校	特別支援学校	家庭訪問	その他
訪問回数	27	2	10	13	0	0	0	2
のべ相談件数	66	2	24	36	0	0	0	4

④各種教室参加者数

表8

教室名	回数	のべ参加者
親子教室(6教室)	240	1,183
早期療育教室(7教室)	203	1,042
療育教室(6教室)	116	594
合計	559	2,819

⑤相談支援事業 計画作成・モニタリング件数

表9

事業種別	サービス等 利用計画	モニタ リング
障害児相談支援	539	816
特定相談支援	0	0
合計	539	816

(4) 地域支援等

① 保育所等訪問支援の実施

令和6年度はSW、心理士、PT、OTが保育所等を訪問し、  
相談実人数12人、のべ25人に対して20回訪問を行いました。

② 療育講演会の開催

表10

実施日	講演会のテーマ	講師等（敬称略）	参加者数
8月1日	『発達障害とゲーム・ネット依存』	兵庫県中央こども家庭センター 医療参事 木下 直俊	89

参加対象者：障害のあるお子さんまたは発達に心配のあるお子さんをお持ちの保護者  
及び支援者（横須賀市在住の方）

## 1. 地域生活支援部門

### (1) はじめに

ソーシャルワーカーは18歳未満のお子さんの発達や障害に関するさまざまな相談に対応し、地域の関係機関と連携をしながら、地域生活の支援を行いました。また、親子教室・早期療育教室・療育教室を担当し、保育士・児童指導員や診療課スタッフと共に教室運営や療育を行い、各種相談に対応しました。

### (2) 地区担当ソーシャルワーカー（SW）の業務

主な業務は、①新規相談の受付（電話受付・インテーク等）②初診・再診・療育プログラム面談の同席③療育プログラムの作成④療育プログラムに基づいた継続相談⑤関係機関との連携⑥幼稚園・保育園・こども園、学校等への巡回訪問等によるセンター利用児及び家族の地域生活支援⑦教室利用、通園入園、就園・就学等への進路相談の支援⑧サービス等利用計画の作成など相談支援を行っています。

### (3) 令和6年度相談概況

相談の始まりは、発達全般・子育て全般や関わり方などが主であり、インテーク後からお子さんの発達の特徴や障害について、保護者に寄り添いながら相談支援を行いました。また、所属集団や就園・就学についての相談も多く、お子さんが所属している集団の中で安心して過ごすために「丁寧に寄り添う継続的な支援」「地域生活の支援とそのため地域の関係機関との連携」に取り組みました。通園施設や児童発達支援事業所を利用するお子さんを中心にサービス等利用計画の作成等を行いました。

表1-1 相談件数

相談種別	新規相談			再相談			合計
	6年度	前年度	前年比	6年度	前年度	前年比	
電話相談	613	686	△ 73	4,285	4,675	△ 390	4,898
来所相談	587	589	△ 2	981	874	107	1,568
会場相談	97	56	41	702	604	98	799
居宅訪問	0	0	0	144	30	114	144
合計	1,297	1,331	△ 34	6,112	6,183	△ 71	7,409

表1-2 新規電話相談件数

管轄健康福祉センター	新規ケース	前年度
中央健康福祉センター	271	280
北健康福祉センター	73	73
南健康福祉センター	208	232
西健康福祉センター	45	56
その他・不明	16	45
合計	613	686

表1-3 内容別相談件数

相談内容	電話	来所	会場	居宅訪問	合計
インテーク申込	3	580	0	0	583
インテーク	534	5	0	0	539
発達全般	627	131	246	1	1,005
子育て全般	154	27	70	0	251
関わり方	589	86	180	0	855
療育プログラム	31	460	1	0	492
診察申込	379	0	2	0	381
就園・就学	153	22	199	0	374
所属集団	640	64	55	0	759
社会資源・制度	490	67	25	0	582
計画相談・障害児相談支援	869	144	35	143	1,191
関係機関	1,423	5	0	0	1,428
その他	448	25	21	0	494
合計	6,340	1,616	834	144	8,934

\*複数該当する場合は、それぞれカウントしています。

表1-4 新規電話相談の紹介元機関

紹介元機関名	件数
健康福祉センター	125
医療機関	56
保育園	36
幼稚園	24
こども園	9
小学校	101
中学校	6
ことばの教室	0
親子教室・療育教室	5
広報（冊子含む）	3
広報（ネット等）	92
利用きょうだい児	85
こども家庭支援課	5
児童相談所	13
障害福祉課	3
その他	50
合計	613

表1-5 新規電話相談利用児童数

種別	6年度	前年度	前年比
就学前	349	382	△ 33
就学後	264	304	△ 40
合計	613	686	△ 73

表1-6 相談支援事業 計画作成・モニタリング件数

事業所別	サービス等利用計画			モニタリング		
	6年度	前年度	前年比	6年度	前年度	前年比
障害児相談支援	539	726	△ 187	816	1,188	△ 372
特定相談支援	0	1	△ 1	0	0	0
合計	539	727	△ 188	816	1,188	△ 372

#### (4) 教室担当ソーシャルワーカー (SW) の業務

主な業務は、①担当する教室の運営（連絡調整を含む） ②教室参加児童の療育 ③教室参加の保護者への支援や保護者向けの勉強会 ④通園や幼稚園・保育園・こども園、学校への進路相談等です。

i) 早期療育教室及び療育教室では、運動や知的な発達に遅れや障害があるお子さんと保護者が参加して、楽しく療育を行いながら、育児やこれからの療育・進路等について相談をする教室です。当センターの外来診療を受診後、療育プログラムの一環として保護者に提案しています。

ii) 親子教室は1歳半健診や3歳半健診等でことばが遅い、友だちとうまく遊べないなどの心配のあるお子さんと保護者が参加しています。保育を中心としたプログラムを通して、子育てや発達について保護者と一緒に考えていく教室です。小さいお子さんを連れて参加しやすいように、市内4つの会場で開催しています。

親子教室の参加は当センターの外来診察は不要です。健康福祉センターからの紹介で、お子さんに合う教室をご案内し、SWと保育士、そして診療課スタッフ(心理士)が適宜入ります。

表1-7 早期療育教室

会場：療育相談センター

教室名	対象児	開催日数			参加人数		
		6年度	前年度	前年比	6年度	前年度	前年比
ひよこ教室	未歩行児 (2歳中心)	40	40	0	252	149	103
ぺんぎん教室	療育が必要な 2歳児	94	94	0	495	522	△ 27
くじら教室	療育が必要な 3歳児	58	56	2	240	292	△ 52
らっこ教室	肢体不自由のある 児(0~1歳)	11	11	0	55	44	11
合計		203	201	2	1,042	1,007	35

表1-8 療育教室

会場：療育相談センター

教室名	対象児	開催日数			参加人数		
		6年度	前年度	前年比	6年度	前年度	前年比
ポニー教室 年中児	幼稚園・保育園に入 園している小集団療 育が必要な4・5歳児	42	40	2	210	257	△ 47
ポニー教室 年長児		74	76	△ 2	384	515	△ 131
合計		116	116	0	594	772	△ 178

表1-9 親子教室

教室名	対象児	会場	開催日数			参加人数		
			6年度	前年度	前年比	6年度	前年度	前年比
コアラ火曜	2歳児	三春 コミュニティーセンター	42	42	0	219	137	82
コアラ金曜	2歳児		30	29	1	195	97	98
コアラ水曜	2歳児	総合福祉 会館	43	29	14	231	160	71
パンダ木曜	2・3歳児		41	39	2	131	172	△ 41
パンダ水曜	2・3歳児	総合高校	42	41	1	207	195	12
パンダ金曜	2・3歳児	西健康福祉 センター	42	41	1	200	89	111
合計			240	221	19	1,183	850	333

## (5) 地域支援

診療課スタッフと協力し、療育相談センターの利用者が日々通う学校、幼稚園・保育園・こども園への巡回相談を行い、地域生活支援を実施しました。学校、幼稚園・保育園・こども園の先生方を支援するコンサルテーション等の取り組みも行っています。また地域支援の一環として、横須賀市が主催する研修に協力しました。

表1-10 巡回相談（保護者の同意による）訪問先別件数

種別	幼稚園	保育園	こども園	学校	特別支援学校	家庭訪問	その他	合計	巡回相談の件数
6年度	54	51	74	35	1	0	9	224	273
前年度	53	53	72	33	3	0	0	214	262
前年比	1	△ 2	2	2	△ 2	0	9	10	11

表1-11 巡回相談（施設へのコンサルテーション）訪問先別件数

種別	幼稚園	保育園	こども園	学校	特別支援学校	家庭訪問	その他	合計	巡回相談の件数
6年度	2	10	13	0	0	0	2	27	66
前年度	3	4	13	2	0	0	0	22	90
前年比	△ 1	6	0	△ 2	0	0	2	5	△ 24

## i) 健康福祉センターとの連絡会の開催

中央・北・南・西の各健康福祉センターと連携及び情報交換を目的に、5月に各健康福祉センターにSWが伺い、各機関の状況等を共有しました。

## ii) 保育所等訪問支援事業

お子さんが保育所や幼稚園、小学校などで集団生活を送るための支援を提供する福祉サービスです。SW、心理士、PT、OTが施設を訪問し、お子さんが集団生活に適應できるよう環境や活動の調整や、施設の職員への助言等を行いました。

iii) 療育講演会の開催

発達障害への理解を深める啓発活動として、療育講演会を8月に開催しました。

iv) 家族セミナーの開催

当センターの外来を利用している保護者を対象とした「家族セミナー」を計4回開催しました。講師は所長はじめ各セラピストとSWが対応しました。

v) 就学説明会の開催

5月に外来・年長児の保護者を対象に、就学説明会を教育委員会と共催しました。

vi) 横須賀市主催 発達支援コーディネーター研修への協力

(6) ソーシャルワーカー研修等参加

	研修名	参加人数
1	横浜市教育委員会主催 「吃音のある子どもの社会参加に向けて」	1
2	神奈川県こども医療センター主催 児童思春期精神科セミナー	2
3	神奈川LD協会主催 夏のセミナー「子どもの性被害の理解と対応の基本」	2
4	神奈川LD協会主催 「WISC-Vの結果を学校現場で活かすー検査結果の解釈と支援ー」	1
5	神奈川LD協会主催 夏のセミナー「発達障害のカモフラージュ」	1
6	子どもと若者の訪問看護ステーション主催 オープンダイアログの会	1
7	横須賀市児童相談所主催「ステップファミリーの理解と支援」	3
8	国立障害者リハビリテーションセンター学院主催「巡回支援専門員研修会」	2
9	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク主催 相談支援従事者初任者研修(全3回)	1
10	横須賀市児童相談所主催「関係機関との連携・協働と在宅支援②」	4
11	横須賀市こども家庭支援課主催「共感性に欠ける育児が生ま出すもの」	2
12	横須賀市主催 虐待防止研修	6
13	神奈川県社会福祉士会主催「困難さを抱える子供たちとその家族」	1
14	横須賀市私立幼稚園・認定こども園協会主催「こどもまんなか社会」時代の教育・保育	2
15	かながわ医療的ケア児支援センター(横須賀・三浦圏域)主催「医療的ケア児が地域で暮らしていくために」	3
16	神奈川県こども医療センター主催 神奈川県医療的ケア児等コーディネーター・フォローアップ研修	1

## 2. 診療部門

### (1) 診療室

#### ①外来診療

小児精神科・小児神経内科医師、耳鼻いんこう科医師、リハビリテーション科医師、歯科医師（摂食外来担当）、看護師で業務を行いました。

表2-1

診療科目	のべ対応人数		合計
	初診	再診	
小児精神科・小児神経内科	942	5,765	6,707
耳鼻いんこう科	0	30	30
リハビリテーション科	0	271	271
小児歯科（摂食外来）	0	127	127
合計	942	6,193	7,135

表2-2

年齢	発達障害による診断内訳																				
	年齢別件数	なし	自閉症	アスペルガー障害	特定不能の広汎性発達障害	注意欠陥多動性障害	学習障害	発達性言語遅滞（単なる遅れ）	音韻障害（含む構音障害、吃音）	排泄障害	発達性協調運動障害	チック障害	愛着障害	行為障害	気分障害	適応障害	身体表現性障害	トラウマ（含むPTSD）	間歇性爆発性障害	不適切な養育	その他
0歳児	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1歳児	35	6	8	0	17	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2歳児	89	10	13	1	58	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3歳児	76	6	5	3	44	5	0	1	6	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	2
4歳児	104	8	10	2	72	2	0	0	6	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
5歳児	72	9	3	2	36	6	0	2	2	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	4	4
6歳児	74	10	2	7	38	12	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
7歳児	98	10	7	4	50	14	2	0	3	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	4
8歳児	95	10	9	7	49	8	1	0	1	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	4	2
9歳児	78	7	4	7	36	8	0	0	3	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	2	6
10歳児	68	7	5	4	35	4	5	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
11歳児	71	4	5	6	40	6	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	5
12歳児	47	11	2	1	23	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	2
13歳児	40	5	5	2	16	5	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
14歳児	37	3	10	3	13	4	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
15歳児	17	4	1	1	6	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
16歳児	27	5	3	2	9	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2
17歳児	20	1	6	1	7	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	1,053	121	98	53	549	84	10	7	30	0	7	12	8	1	0	8	1	2	0	20	42

表2-3

知的障害	合計	無し（86以上）	境界域精神遅滞（85～71）	軽度精神遅滞（70～51）	中等度精神遅滞（50～36）	重度精神遅滞（35～21）	最重度精神遅滞（21未満）	不明
		件数	942	357	294	196	63	21

表2-4

身体疾患	合計	無し	てんかん	脳性麻痺	運動発達遅滞（脳性麻痺以外）	脳炎・脳症後遺症	ダウン症候群	先天奇形染色体異常（ダウン症候群以外）	先天性筋疾患	先天性心疾患	難聴・聴力障害	その他
		件数	950	846	10	3	27	1	9	4	2	3

## ②検査業務

脳波および脳波聴力検査（ABR、ASSR）、検体検査があります。検査の対象はセンター受診者で、発達段階に応じて睡眠導入剤を使用し検査を行いました。入眠しやすいように環境の調整や、保護者への指導を行いました。

## ③看護業務

### i) 外来業務

診療介助を主としながら、診療の予約、他部門との連携や連絡調整、カルテの管理、診療器械等の管理、職員の予防接種等を行いました。また、利用者の安全を考慮し、環境整備を行い事故防止に努めました。

臨床検査時の投薬や投薬後のお子さんの観察などを行い、検査が円滑に行われるよう配慮しました。その他に早期療育教室への参加、母子分離の面談でのお子さんの把握や観察を行いました。

### ii) 通園業務

通園児の健康管理を中心に、療育中の怪我や病気の対応を行いました。また、必要に応じ主治医と連携しながら医療的ケア（人工呼吸器、喀痰吸引、経鼻経管・胃瘻管理、導尿、医療的ケア児の送迎等）や痙攣対応、投薬等を行いました。年間を通して、健康診断（内科・歯科・耳鼻科・尿検査・身体測定）や健康相談、予防接種や感染症等の情報共有を行いました。通園行事（入園式・卒園式・遠足・運動会・親子Day等）への参加や、職員とシミュレーション（バス内・園内緊急時対応・心肺蘇生法・エビペン注射・嘔吐物処理等）を行いました。卒園する児童の就学先への引継ぎも必要時行いました。

## ④地域対応

センター所長が横須賀市主催事業発達支援コーディネーター研修にて「発達障害の理解と支援のコツ」と題し、講師として協力しました。

また、看護師が横須賀市立看護専門学校で、講義を行いました。

そのほか、年間を通して、横須賀市立看護専門学校・神奈川衛生学園の実習に協力しました。

⑤研修参加

医師（常勤のみ）

	研修名	参加人数
1	学会参加:小児神経学会(第66回)、小児精神神経学会(第131回、132回)	1

看護師

	研修名	参加人数
1	Reha on-demand主催 排痰のための呼吸リハビリテーション 排痰のための基礎知識	1
2	日本精神科学会主催 第4回児童のこころと発達の研究會	2
3	武田薬品工業株式会社主催 熱性けいれん重責状態とブコラム口腔内液の概要	4
4	甘えと間主観性研究会主催 第15回甘えと間主観性研究会全国學術集會 東京大會	1
5	2024年度かながわ医療的ケア児支援センター（横須賀・三浦地区）主催 医療的ケア児が地域でくらししていくために」保育園での実践報告	3
6	S.P.ビームス株式会社主催 キッズフェスタ～第23回子どもの福祉用具展アンダー18～	1

## (2) 心理

### ①外来業務

#### i) 心理評価

当センターでは医師の初診に先立って心理評価（発達検査・知能検査）を実施しています。また、必要に応じて、再評価を実施しています。（在園在籍児を含む）

#### ii) 個別指導

定期的な指導やフォローが必要とされたお子さんとその家族に対し、1か月～数か月に1回の頻度で行いました。内容は、初期療育、お子さんの行動を理解するための情報の提供、具体的なお子さんの行動への対応や工夫の仕方の助言、家族の心理的なサポートが中心となっています。

#### iii) 教室（小集団療育）

早期療育教室、療育教室に参加し、その後コンサルテーションを行いました。療育教室のかもめグループでは、他の職種と連携してグループの運営を行いました。

表2-5 心理評価、個別指導、教室の月別のべ人数

月	心理評価		個別指導	教室	合計	
	初診前	初診後*	のべ人数*	のべ人数*	計(※1)	総計(※2)
4月	52	40	19	70	129	181
5月	33	49	47	59	155	188
6月	29	38	89	83	210	239
7月	43	36	49	66	151	194
8月	55	25	65	0	90	145
9月	48	15	87	45	147	195
10月	48	22	57	52	131	179
11月	47	9	96	45	150	197
12月	39	9	85	33	127	166
1月	44	25	52	67	144	188
2月	38	19	61	60	140	178
3月	41	24	74	67	165	206
合計	517	311	781	647	1,739	2,256

※1 初診後に実施したもの（\*印の項目） ※2 初診前の心理評価を加えた数

表2-6 個別指導児の年齢別内訳

年齢	人数
0歳児	3
1歳児	17
2歳児	40
3歳児	60
4歳児	116
5歳児	185
小1	10
小2	13
小3	12
小4	13
小5	22
小6	13
中学生以上	17
合計	521

表2-7 個別指導児の疾患別内訳

疾患	人数
自閉症	92
広汎性発達障害	252
注意欠陥多動性障害	12
アスペルガー障害	32
学習障害	0
てんかん	0
ダウン症候群	13
脳性麻痺	3
その他の染色体異常	3
知的障害	46
精神運動発達遅滞	28
要養護（虐待等）	0
標準発達	8
未確定	0
その他	32
合計	521

## ②通園業務

i) コンサルテーションおよび通園児童の問題行動や児童への関わり方について  
 コンサルテーション（15 クラスに対して数回ずつ）、通園職員への助言や提案を行いました。

ii) 保護者勉強会

7月25日に「子どもの育ちをどうとらえるか～発達特性の理解と関わり方の工夫～」というテーマで、会場とオンラインのハイブリットにて開催しました。

## ③地域対応

i) 巡回相談

現地に赴き、お子さんの観察及びカンファレンスを行う巡回相談を幼稚園・保育園・こども園に対して実施しました。

ii) 保育所等訪問支援事業

巡回相談や保育所等訪問支援事業では、多職種による幼稚園、保育園、こども園に対する支援を行いました。

iii) その他

- ・療育手帳の申請及び更新のための資料作成
- ・他機関へ情報提供
- ・教育委員会関連の委員会・連絡会へのオブザーバー参加

#### ④心理士研修参加

	研修名	参加人数
1	特別支援教育士資格認定協会主催 指導実習（講師）	1
2	横須賀市児童相談所主催 各関係機関との連携・協働と在宅支援	1
3	神奈川県臨床心理士会主催 令和6年度 第4回 全体研修会 WISC-Vを学ぶ	1
4	横須賀市こども家庭支援課主催 ペアレント・トレーニング	1
5	小児精神神経学会主催 第131回小児精神神経学会	2
6	横須賀市児童相談所主催 虐待、ネグレクトの乳幼児へ与える影響	2
7	日本心理臨床学会主催 第32回心の健康会議	2
8	日本小児神経学会主催 第19回子どものこころプライマリケア・セミナー	3
9	神奈川LD協会 夏のセミナー2024主催 WISC・WAIS実施のコツ-見立てに有効な行動観察のポイント-	1

### (3) 理学療法 (PT)

#### ①外来業務

小児精神科・小児神経内科及びリハビリテーション科医師の指示のもと、お子さんの障害や運動発達の状態に応じて、理学療法の目標を設定し、指導を行いました。運動遊びを通して、お子さんの運動発達を促しながら、自宅での遊び方の工夫なども伝えていきます。

また、臥位や座位の姿勢保持が困難なお子さんに対しては、お子さんの姿勢の評価を行った上で、保護者の方への姿勢ケアの指導や、必要に応じて、自宅で使用する姿勢保持具の作製や相談も行いました。

#### i) 利用者の状況

個別指導及び経過観察として、週1回から月1回、月2回、2～3カ月に1回の頻度で、理学療法を実施しました。

表2-8 初回評価、個別指導児の月別のべ人数

	初回評価	個別指導	人数
4月	3	87	90
5月	5	79	84
6月	1	49	50
7月	4	68	72
8月	1	83	84
9月	1	87	88
10月	1	105	106
11月	1	88	89
12月	1	80	81
1月	1	87	88
2月	0	81	81
3月	1	83	84
合計	20	977	997

表2-9 年齢別内訳

年齢	人数
0歳児	5
1歳児	13
2歳児	16
3歳児	5
4歳児	7
5歳児	7
小1	1
小2	5
小3	4
小4	3
小5	1
小6	2
中学生以上	6
合計	75

表2-10 疾患別内訳

疾患	人数
自閉症	4
広汎性発達障害	3
注意欠陥多動性障害	0
アスペルガー障害	0
学習障害	0
てんかん	0
ダウン症候群	7
脳性麻痺	19
その他の染色体異常	6
知的障害	2
精神運動発達遅滞	24
要養護(虐待等)	0
標準発達	0
未確定	0
その他	10
合計	75

#### ii) 摂食外来

月に2回の摂食外来に歯科医師を中心に摂食指導を行いました。

#### iii) 補装具外来

リハビリテーション科医師の指示のもと、作業療法士と共に補装具の作成及び修理を行いました。

#### iv) 早期療育教室

早期療育教室に参加し、ご家族との相談、職員への助言や指導を行いました。

## ②通園業務

### i) 姿勢ケアの指導

通園児童の臥位や座位における姿勢ケアについて、通園職員への助言や指導を行いました。必要に応じて、通園施設内で使用する姿勢保持具の作製を行いました。

### ii) 摂食指導

給食に同席し、摂食指導および食形態の検討を行いました。

### iii) 保護者勉強会

10月18日に『足の発達と靴の選び方』というテーマで勉強会を実施しました。

### iv) コンサルテーション

クラスへのコンサルテーションを行いました。

## ③地域対応

### i) 幼稚園・保育園・こども園、学校等との連携

保護者や幼稚園・保育園・こども園、学校からの要請や必要に応じて訪問し、スタッフへの助言や指導、及び集団の中での様子や行動観察をすると共に、先生との情報交換を行いました。

### ii) 保育所等訪問支援事業

SW、心理士、理学療法士、作業療法士が保育所等を訪問しました。

## ④理学療法士研修参加

	研修名	参加人数
1	リハテックリンクス主催 子どもの“発達”を学ぶ	1
2	リハテックリンクス主催 子どもの発達支援に必要な発達評価の視点	1
3	リハテックリンクス主催 発達科学に根ざした小児の運動障害・発達障害の理解と発達支援	1
4	リハテックリンクス主催 リハビリテーション専門職のための発達学講義	1
5	神奈川県立こども医療センター 退院・在宅医療支援室主催 NICU卒業生のフォローアップ体制とリハビリテーションの重要性	1
6	SIG姿勢保持実行委員会主催 SIG姿勢保持講習会2024	1
7	一般社団法人日本小児理学療法学会主催 第11回日本小児理学療法学会学術大会	1
8	NPO法人フュージョンコムかながわ・肢体不自由児協会主催 障害の重い方のコミュニケーション支援	1
9	S.P.ビームス株式会社主催 キッズフェスタ～第23回子どもの福祉用具展アンダー18～	2

#### (4) 作業療法 (OT)

##### ①外来業務

小児精神科・小児神経内科及びリハビリテーション科医師の指示のもと、一人ひとりの障害の状況や要望等を考慮したリハビリテーション目標を設定し指導を行いました。遊びを中心としたいろいろな活動を通して、手の機能や認知面等の発達を促し、日常生活に必要な力をつけるための指導・援助を行いました。また、食事・衣類の着脱・遊び等の日常生活が容易に行えるように、自助具や補装具等の使用・作製、住宅改修についての相談を行いました。

##### i) 利用者の状況

個別指導及び経過観察として、月1回、月2回、2～3ヶ月に1回の頻度で作業療法を実施しました。

表2-11月別のべ人数

	初回評価	個別指導	人数
4月	9	93	102
5月	8	85	93
6月	8	87	95
7月	6	103	109
8月	6	104	110
9月	3	107	110
10月	10	124	134
11月	8	110	118
12月	2	104	106
1月	5	116	121
2月	5	108	113
3月	9	128	137
合計	79	1,269	1,348

表2-12 年齢別内訳

疾患	人数
0歳児	0
1歳児	3
2歳児	13
3歳児	17
4歳児	45
5歳児	53
小1	12
小2	12
小3	4
小4	9
小5	5
小6	3
中学生以上	4
合計	180

表2-13 疾患別内訳

年齢	人数
自閉症	19
広汎性発達障害	74
注意欠陥多動性障害	4
アスペルガー障害	8
学習障害	1
てんかん	0
ダウン症候群	11
脳性麻痺	8
その他染色体異常	6
知的障害	8
精神運動発達遅滞	24
要養護(虐待等)	0
標準発達	1
未確定	0
その他	16
合計	180

##### ii) 摂食外来

月に2回の摂食外来に参加し、摂食指導を行いました。

##### iii) 補装具外来

リハビリテーション科医師の指示のもと、理学療法士と共に補装具の作製及び修理を行いました。

##### iv) 療育教室：かもめグループ

他の職種と連携しグループの運営を行いました。

##### ②通園業務

##### i) 姿勢ケアの指導

通園児童の座位や臥位の姿勢ケアについて通園職員への指導・援助を行いました。

##### ii) 摂食指導

給食時に摂食指導を行いました。

##### iii) 保護者勉強会

9月27日「楽しく遊ぼう～親子でできる感覚遊び・運動遊び」というテーマで勉強会を実施しました。今年度は会場とオンラインの受講開催で15人の参加がありました。

##### iv) コンサルテーション

9クラスのコンサルテーションを行いました。

### ③地域対応

i) 幼稚園・保育園・こども園、学校等との連携

保護者、幼稚園・保育園・こども園、学校からの要請や必要に応じて訪問し、申し送り、助言や指導を行うなど、連携を図りました。

### ④作業療法士研修参加

	研修名	参加人数
1	神奈川県総合リハビリテーション事業団主催 高次脳機能障がいセミナー 小児編	1
2	和歌山県作業療法士会主催 発達が気になる子への生活と学習支援・肢体不自由児への学習とテクノロジーの活用	1
3	東京都作業療法士会主催 現職者研修会（発達障害領域のOT）	1
4	横須賀市児童相談所主催 性虐待への対応について	1
5	2024年度かながわ医療的ケア児支援センター（横須賀・三浦地区）主催 「医療的ケア児が地域でくらししていくために」～保育園での受け入れの実践報告～	1
6	東京都作業療法士会教育部主催 明日からすぐに使えるDCDの評価と支援	1
7	日本発達系作業療法学会主催 日本発達系作業療法学会第13回学術大会	1
8	コミュニケーション発達支援研究会主催 障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定～スイッチ操作の獲得を目的とした支援～	1
9	視覚発達支援研究会主催 第1回視機能専門部会 眼球運動とその評価	2
10	NPO法人フュージョンコムかながわ・肢体不自由児協会主催 障害の重い方のコミュニケーション支援	1
11	S.P.ビームス株式会社主催 キッズフェスタ～第23回子どもの福祉用具展アンダー18～	2

## (5) 言語聴覚療法 (ST)

### ① 外来業務

主に言葉の遅れや発音の問題、吃音、難聴、読み書きに困難のあるお子さんに対し、個々の障害の状況や要望などを考慮した目標を設定し、相談や個別指導を行いました。必要に応じ、聴力検査を実施しました。

#### i) 利用者の状況

個別指導及び経過観察として、週1回から2~3ヶ月に1回の頻度で言語聴覚療法を行いました。

#### ii) 耳鼻科外来

耳鼻いんこう科医師による月2回の耳鼻科外来に立ち会いました。必要に応じて、聴力検査、ティンパノメトリー(鼓膜の動きの程度を調べる検査)を実施しました。

#### iii) 聴力検査

月4回聴力検査の実施日を設定し、未就学の外来利用児に聴力検査を実施しました。また外来利用児のうち年長児の希望者を対象に再度聴力検査を実施しました。

表2-14 初回評価、個別指導児、聴力検査実施児の月別のべ人数

	初回評価	個別指導	聴力検査	人数
4月	6	30	47	83
5月	2	38	51	91
6月	4	35	44	83
7月	8	40	41	89
8月	2	42	35	79
9月	4	45	34	83
10月	6	46	47	99
11月	5	37	30	72
12月	2	32	23	57
1月	1	41	27	69
2月	2	43	32	77
3月	6	48	32	86
合計	48	477	443	968

表2-16初回評価、個別指導児の疾患別内訳

障害の種類	人数
自閉症	28
広汎性発達障害	19
注意欠陥多動性障害	1
アスペルガー障害	2
学習障害	0
てんかん	0
ダウン症候群	0
脳性麻痺	2
その他の染色体異常	1
知的障害	6
精神運動発達遅滞	5
要養護(虐待等)	0
標準発達	0
未確定	0
その他	24
合計	88

表2-15初回評価、個別指導児の年齢別内訳

疾患	人数
0歳児	0
1歳児	0
2歳児	3
3歳児	2
4歳児	15
5歳児	25
小1	11
小2	10
小3	7
小4	7
小5	5
小6	2
中学生以上	1
合計	88

iv) 摂食外来

摂食外来に言語聴覚士1人が参加し、摂食指導を行いました。

v) 療育教室：かもめグループ

他の職種と連携してグループの運営を行いました。

②通園業務

i) 聴力検査

年長児の希望者を対象に聴力検査を実施しました。

ii) 摂食指導

給食時に摂食指導及び給食の食形態の検討を行いました。

iii) 保護者勉強会

12月5日に「ことばをはぐくむ」というテーマで勉強会を実施しました。会場とオンラインのハイブリットにて開催しました。

iv) コンサルテーション

クラスへのコンサルテーションを行いました。

③地域対応

i) 市立ろう学校・特別支援学校・市立小学校・ことばの教室

評価を行ったお子さんや個別指導を実施しているお子さんの通学する学校の先生と連携を図るための巡回や来所相談を行い、情報交換や文書での申し送りを行いました。

ii) 幼稚園・保育園・こども園・学校

評価を行ったお子さんや、個別指導を実施しているお子さんの集団の中での様子や行動観察、また通園する幼稚園・保育園・こども園の先生との連携のため巡回を行い、情報交換や文書での申し送りを行いました。

④言語聴覚士研修参加

	研修名	参加人数
1	「臨床の知を考える会」主催 グループG 第4回研究会	1
2	言語発達障害研究会主催 第92回定例会 調査報告	1
3	日本コミュニケーション障害学会主催 第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会	1
4	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会主催 第146回難聴言語障害研究会	1
5	エイタックラボ主催 認知や言語発達に応じた個別最適なコミュニケーション支援とICTや支援技術の活用を学ぶ	1
6	学びプラネット主催 読書のバリアってどんなバリア？音声図書だけではない読書バリアフリーの世界	1
7	「臨床の知を考える会」主催 グループG 第5回研究会	1
8	「臨床の知を考える会」主催 グループF症例検討会	1
9	日本吃音・流暢性障害学会主催 第12回 日本吃音・流暢性障害学会	1
10	エイタックラボ主催 atackLab オンライン実践セミナー	1
11	「臨床の知を考える会」主催 グループG 第6回研究会	1
12	学びプラネット主催 対話型読み書きアセスメント～読み書きの速度を測るだけではないURAWSSの活用法～	1
13	「臨床の知を考える会」主催 グループF症例検討会	1
14	甘えと間主観性研究会主催 第15回甘えと間主観性研究会全国学術集会 東京大会	2
15	言語発達障害研究会主催 外国にルーツをもつ子どもの発達障がいと支援について	2

## (6) 摂食外来

歯科医師を中心に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、看護師と共に摂食機能や食事の進め方についてアドバイスや定期的な指導を行いました。

月に1回、通園の給食の時間に歯科医師による巡回を行い、担任にアドバイスをしました。

表2-17 月別のべ人数

	人数
4月	11
5月	11
6月	11
7月	11
8月	12
9月	12
10月	7
11月	12
12月	12
1月	8
2月	11
3月	9
合計	127

表2-18 年齢別内訳

年齢	人数
0歳児	3
1歳児	11
2歳児	10
3歳児	11
4歳児	12
5歳児	15
小1	4
小2	0
小3	0
小4	0
小5	0
小6	0
中学生以上	0
合計	66

表2-19 疾患別内訳

疾患	人数
自閉症	8
広汎性発達障害	8
注意欠陥多動障害	0
アスペルガー障害	0
学習障害	0
てんかん	0
ダウン症	16
脳性麻痺	5
その他の染色体異常	5
知的障害	3
精神運動発達遅滞	15
要養護(虐待等)	0
標準発達	0
未確定	0
その他	6
合計	66

## (7) 補装具外来

リハビリテーション科医師の指示のもと、理学療法士、作業療法士、補装具業者が協力し、補装具の評価、作製、修理を行いました。お子さんと保護者の方の必要性や要望に応じてスタッフで相談・検討を行い、お子さん一人ひとりに合わせた補装具の作製および修理を行いました。

表2-20 月別のべ人数

	人数
4月	24
5月	19
6月	13
7月	20
8月	21
9月	28
10月	24
11月	29
12月	21
1月	19
2月	29
3月	24
合計	271

表2-21 年齢別内訳

年齢	人数
0歳児	2
1歳児	8
2歳児	16
3歳児	10
4歳児	13
5歳児	13
小1	3
小2	5
小3	8
小4	6
小5	1
小6	2
中学生以上	12
合計	99

表2-22 疾患別内訳

疾患	人数
自閉症	2
広汎性発達障害	3
注意欠陥多動障害	0
アスペルガー障害	0
学習障害	0
てんかん	0
ダウン症	15
脳性麻痺	13
その他の染色体異常	10
知的障害	4
精神運動発達遅滞	36
要養護(虐待等)	0
標準発達	0
未確定	0
その他	16
合計	99

表2-23 補装具作製および修理件数の内訳

補装具名	件数
車椅子・バギー	7
座位保持装置付車椅子	2
座位保持装置	5
下肢装具	23
足底板	15
カーシート	1
その他	4
修理	29
合計	86

## (8) かもめグループ

知的に遅れがないにも関わらず、周囲に合わせるのが苦手、じっとしているのが苦手などの発達特性により、幼稚園・保育園・こども園の集団場面において困難さがあるお子さんとその保護者を対象にグループ療育を行いました。

お子さんに対しては、個別検査とグループの振り返りを元に興味事をきっかけにしたり、課題のヒントや活動のモデルを示す等、注目するための工夫や理解しやすい工夫を実践して、他のお子さんと共に活動を楽しむための基礎づくりを行いました。また、親に対しては、グループの様子を通してお子さんの特徴の理解を促して対応の工夫を考えるなど、生活や就学に向けてのサポートを行いました。

表2-24 月別のグループ開催回数、参加のべ人数

	回数	人数
6月	1	5
7月	2	9
8月	1	4
9月	2	9
10月	2	8
11月	2	7
12月	1	5
1月	2	6
2月	1	4
3月	1	5
合計	15	62

※6月から開催

## (9) すずらんグループ

精研式『ペアレント・トレーニングプログラム』を基礎にした保護者のグループです。

保護者とお子さんが、より良いコミュニケーションで家庭生活が送れるようにすることを目的としています。お子さんにわかりやすい、具体的な対応を身につけることで、親と子が、ともに日常生活をより穏やかに送れるようにサポートするためのものです。

表2-25 月別のグループ開催回数、参加のべ人数

	回数	人数
4月	0	0
5月	2	9
6月	2	8
7月	2	8
8月	1	3
9月	2	7
10月	2	10
11月	2	12
12月	2	11
1月	2	12
2月	2	10
3月	1	5
合計	20	95

### 3. 通園部門（ひまわり園）

#### （1）通園の概要

医療型児童発達支援センター（定員40人）と福祉型児童発達支援センター（定員50人）があり、令和6年度は、医療型児童発達支援センター7人、福祉型児童発達支援センター94人が通園を利用しました。

#### （2）通園療育のねらい

##### ①お子さんへの支援

お子さんの発達の特性に配慮しながら、身体づくり、基本的な生活習慣の確立、豊かな人間関係の育成を目指します。また、個別支援計画を作成し、一人ひとりのお子さんに合わせて専門的な療育支援を行います。

##### ②家庭との連携と家族支援

お子さんの生活の基本は家庭です。お子さんの育ちの理解と子育てについて家族と共に考え、支援することを目指します。

##### ③地域生活への支援

お子さんが地域生活を健やかに送れるよう地域関連機関と連携・協力した支援を目指します。

#### （3）クラス編成

お子さんの発達の特性或年齢、併行通園等を考慮したクラス編成をしました。

児童発達支援センター種別		日数	形態	年齢
医療型	ほし	週5	単独	4・5歳児
	まきば	週1・2	親子	3歳児
福祉型	つきA	週1	併行	4・5歳児
	つばさA	週2	併行	4・5歳児
	つばさB	週1	併行	4・5歳児
	いずみA	週2	親子	3歳児
	いずみB	週2	併行	4・5歳児
	おがわA	週1・2	親子	3歳児
	おがわB	週2	併行	4・5歳児
	そらA	週1・2	併行	4・5歳児
	そらB	週1	併行	4・5歳児
	そらC	週1	親子	3歳児
	にじ	週2・3・4・5	単独	4・5歳児
にじ	週2・5	単独	4・5歳児	

#### （4）通園形態とその目的

##### ①単独通園

お友だちや職員と共に過ごす中で様々な経験を積んでいきます。日常生活のリズムを作り、基本的な生活習慣を身につけ、豊かな人間関係を築いていくこと等を学んでいきます。基本的には単独通園ですが、保護者にも療育に参加して頂けるよう、運動会・遠足などの行事を通してお子さんの成長や課題等を職員と一緒に確認し、子育てを共に考えていく機会にしています。

##### ②親子通園

発達に遅れや偏りがあり、同年齢のお友だちと遊ぶことやコミュニケーションの難しさ、基本的な生活習慣に課題を抱えているお子さんが、保護者と一緒に小さな集団の中で楽しくいろいろな経験や練習（療育）を積み重ねていきます。

療育活動の中で、お子さんの様子について保護者と職員が共通理解づくりを図り、お子さんへの関わり方を一緒に考えていくと共に、保護者同士の交流を図ります。

③併行通園

幼稚園・保育園・こども園よりも少人数の集団で、環境や課題設定を分かり易くする等の工夫をしながら集団でより楽しく過ごす練習をしていきます。また、保護者とは家庭や利用施設等でのお子さんの様子を確認し合い、より良い関係づくりや家庭での過ごし方等を共に考えていきます。  
また、クラス担任や担当SWが、幼稚園・保育園・こども園等を訪問し、連携を図っていきます。

(5) 療育時間とプログラム

時間	医療型児童発達支援センター	福祉型児童発達支援センター
10:00	登園 健康チェック マッサージ	登園 朝の仕度 着替え
10:40	朝の集まり	朝の集まり
11:00	午前の活動	午前の活動
11:30	給食の準備	給食の準備
12:00	給食	給食
13:35	午後の活動	午後の活動
14:10	帰りの集まり	帰りの集まり
14:30	降園	降園

(6) 利用児の状況

療育を必要としている後期入園のお子さんの受け入れをしています。  
併行通園先との連携を取り、協力しながら家族を支援していくために、幼稚園・保育園・こども園の訪問も実施しました。今後も、幼稚園・保育園・こども園を始めとした、お子さんを取り巻く地域の関係機関との連携の充実がより求められると思われれます。  
就学したお子さんについては、保護者の了解のもと、担任が就学先の先生との引き継ぎを行いました。

表3-1 月別在籍児童数

月	医療型児童発達支援センター			福祉型児童発達支援センター			在籍児数 合計
	在籍数	(内)入園	(内)退園	在籍数	(内)入園	(内)退園	
4月	7	3	0	88	21	1	95
5月	7	0	0	87	0	0	94
6月	7	0	0	87	0	0	94
7月	7	0	0	87	0	0	94
8月	7	0	0	87	0	0	94
9月	7	0	0	87	0	1	94
10月	7	0	0	94	8	2	101
11月	7	0	0	94	2	0	101
12月	7	0	0	94	0	0	101
1月	7	0	0	94	0	0	101
2月	7	0	0	94	0	0	101
3月	7	0	0	94	0	0	101

\*令和7年3月31日付け卒園児 医療型 0人 福祉型 46人 (内3歳児1人)

表3-2 利用実績

月	医療型児童発達支援センター			福祉型児童発達支援センター		
	開園 日数	のべ 通園児数	1日平均 通園児数	開園 日数	のべ 通園児数	1日平均 通園児数
4月	12	22	1.8	16	478	29.9
5月	14	24	1.7	21	641	10.8
6月	15	25	1.7	23	636	21
7月	19	39	2.1	22	648	35.1
8月	11	22	2.0	11	329	34.8
9月	19	46	2.4	20	574	31.5
10月	17	34	2.0	22	676	37.2
11月	13	22	1.7	24	602	32.7
12月	11	18	1.6	17	480	34.3
1月	9	18	2.0	19	620	36.0
2月	8	20	2.5	18	562	37.1
3月	8	13	1.6	11	353	36.8
合計	156	303	1.9	224	6,599	29.5

＊医療型児童発達支援センターと福祉型児童発達支援センターの開園日数の違いは、行事の振替え日等の違いによるものです。

表3-3 年齢別在籍児童数(令和7年3月31日現在)

種別	医療型児童発達支援センター			福祉型児童発達支援センター			合計		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	合計
2歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3歳児	2	1	3	18	6	24	20	7	27
4歳児	1	1	2	18	11	29	19	12	31
5歳児	2	0	2	34	7	41	36	7	43
合計	5	2	7	70	24	94	75	26	101

表3-4 診断名別児童数

診断名	医療型児童発達支援センター			福祉型児童発達支援センター			合計		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	合計
自閉症	0	0	0	41	14	55	41	14	55
広汎性発達障害	0	0	0	22	4	26	22	4	26
ダウン症候群	0	0	0	2	4	6	2	4	6
知的障害	0	0	0	2	1	3	2	1	3
脳性麻痺	1	1	2	0	0	0	1	1	2
精神運動発達遅滞	1	0	1	1	3	4	2	3	5
その他	1	1	2	2	0	2	3	1	4
合計	3	2	5	70	26	96	73	28	101

表3-5 併行通園等の状況(令和7年3月31日現在)

種別	幼稚園			保育園			こども園			福祉施設等			その他		
	医療	福祉	小計	医療	福祉	小計	医療	福祉	小計	医療	福祉	小計	医療	福祉	小計
2歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3歳児	0	4	4	0	4	4	0	13	13	1	2	3	0	0	0
4歳児	0	10	10	0	2	2	0	6	6	0	4	4	0	0	0
5歳児	0	9	9	0	9	9	0	17	17	0	0	0	0	0	0
合計	0	23	23	0	15	15	0	36	36	1	6	7	0	0	0

表3-6 利用契約日数別在籍数(令和6年3月31日現在)

種別	週1日利用			週2日利用			週3日利用			週4日利用			週5日利用		
	医療	福祉	小計												
2歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3歳児	0	11	11	3	13	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4歳児	0	7	7	0	13	13	0	1	1	0	2	2	2	6	8
5歳児	0	16	16	0	21	21	0	0	0	0	1	1	2	3	5
合計	0	34	34	3	47	50	0	1	1	0	3	3	4	9	13

表3-7 卒園児の進路

進路先	医療	福祉	合計
特別支援学級	0	34	34
特別支援学校	0	9	9
通常の学級	0	0	0
合計	0	43	43

## (7) 主な行事

月	行事名
4月	入園式(親子55人) ひまわり園年度初めの会(保護者43人) 療育参観(保護者28人) クラス懇談会(保護者40人) 給食試食会(保護者19人)
5月	就学説明会(保護者48人) 保護者勉強会(保護者29人) 医療型ピアカウンセリング(保護者1人) 療育参観(保護者35人) クラス懇談会(保護者36人) 給食試食会(保護者39人)
6月	個別療育面談 保護者勉強会(保護者13人) ひまわり親子園Day(親子68人) プール(親子2人) 福祉型ピアカウンセリング(保護者29人) 市立養護学校見学会(保護者5人) 県立武山支援学校見学会(保護者34人)
7月	個別療育面談 保護者勉強会(保護者11人) プール(親子30人)
8月	就学相談会 ひまわり園見学会(幼稚園・保育園・こども園29園) 引き取り訓練(保護者31人)
9月	就学相談会 保護者勉強会(保護者15人) 10月入園説明会(保護者8人) ZOOM療育参観(保護者41人) プール(親子20人) 給食試食会(保護者33人)
10月	個別療育面談 保護者勉強会(保護者7人) ZOOM療育参観(保護者17人) クラス懇談会 (保護者17人) 給食試食会(保護者4人)
11月	個別療育面談 遠足(親子33人) 保護者参加日(保護者92人) 給食試食会(10月入園保護者7人)
12月	個別療育面談(10月入園) 保護者勉強会(保護者13人) 療育参観(保護者61人)
1月	福祉型ピアカウンセリング(保護者23人) 医療型ピアカウンセリング(保護者3人)
2月	個別療育面談 療育参観(保護者50人) クラス懇談会(66人)
3月	卒園式(親子111人) 4月入園説明会(保護者29人)

\*身体測定・内科検診・耳鼻科検診・歯科検診も行いました。

\*避難訓練は毎月行いました。

## (8) 保護者支援

保護者と共に子育てを考えることを大切に、定期的に「個別療育面談」と「懇談会」を行いました。定期的な面談以外にも、保護者との面談は必要に応じ随時行いました。親子クラスの保護者を対象に、ミニ勉強会も実施しました。また、お子さんの成長のプロセス等について共通の理解を深め、日常の子育てや療育に反映できるように、保護者勉強会も行いました（表3-8）。

この他、ひまわり園の保護者会では、園長と保護者会代表との保護者役員会定例会で園の運営等に関する意見交換や保護者役員各担当からの報告・確認などを行いました。保護者同士の縦横の交流の機会として、令和5年度よりひまわり園が主催する「ピアカウンセリング（先輩ママとの座談会）」も行いました。（表3-9）。

表3-8 保護者勉強会の開催状況

日時	テーマ	講師	参加人数(人)
5月16日	発達サポートの基本	療育相談センター所長	20
5月28日	食べることに配慮した給食の工夫	管理課 栄養士	9
6月13日	横須賀の障害福祉サービスについて	横須賀市民生局福祉こども部障害福祉課	13
7月25日	子どもの育ちをどうとらえるか	診療課 心理士	11
9月27日	楽しく遊ぼう～親子でできる感覚・運動あそび～	診療課 作業療法士	15
10月18日	足の発達と靴の選び方	診療課 理学療法士	7
12月5日	ことばをはぐくむ	診療課 言語聴覚士	13

表3-9 ピアカウンセリング（先輩ママとの座談会）の開催状況

日時	テーマ	参加人数
5月13日	就学や学校生活について	医療型クラスの保護者 1人
6月26日	就学や学校生活について	福祉型クラスの保護者 29人
1月23日	就学や学校生活について	福祉型クラスの保護者 23人
1月31日	就学や学校生活について	医療型クラスの保護者 3人

\*保護者会主催で、ひまわり園保護者の親睦を目的とした「ひまわり園保護者全体親睦会」を行いました。

## (9) 職員研修

職員の資質の向上・専門的スキルの習得等を目的とした、職員の外部研修への派遣を重点的に行いました

### 職員派遣研修一覧

	研修名	参加人数
1	法人内通園課主任専門部会	2
2	児童発達支援管理責任者基礎研修	2
3	児童発達支援管理責任者実践研修	1
4	児童発達支援管理責任者更新研修	1
5	強度行動障害研修	1
6	横須賀市立養護学校夏季公開研修会	2
7	全国的障害関係施設長会議 「これからの障害福祉に求められること～令和6年度報酬改定後の課題と展望～」	1
8	児童相談所研修	3
9	心身障害児保育研究会	1
10	自閉症支援者基礎講座研修	2
11	全国職員研修会「5領域ってなんだろ？」	1

12	こども虐待対応研修	2
13	職員向け「ペアトレーニング」体験講座	1
14	こどもまんなかにおいた社会の実現に向けて	1
15	医療ケア児が地域で暮らしていくための保育園での実践報告	5
16	川上康則先生とオンラインでつながる第17弾springセミナー	1
17	0から始める発達支援 5月から取り組むべき実践アプローチ	1
18	ケーススタディーを通した子ども理解～幼児期を発達分野で支えよう～	1
19	職場内の人間関係の作り方 保護者とのコミュニケーションの回り方 親と子どもと社会をつなぐ発達療育研究会	1
20	ASDの特性理解 TEEACHプログラム研究会 東京支部	1
21	発達臨床研究会 発達の意味性をつなぐ理論講座 ～たかが型はめ、されど型はめ、型はめで育てる共感的な心の育ち編～	1
22	淑徳大学発達臨床研修セミナー	1
23	おやと子どもと社会をつなぐ発達療育研究会～ビジョントレーニングについて～	1
24	おやと子どもと社会をつなぐ発達療育研究会～知能検査と発達検査のはなし～	1
25	正解のない問いを考える時代をどう生きるか	1
26	反射を斬る！知っているようで知らない原子反射の理解からのセラピー	1
27	伝えるわかるつながる発達に躓きのある子へのコミュニケーション革新	1
28	子どもの支援の為の知識と実践＝本質を学ぶ	1

### (10) 弟妹預かり

親子登園時に同行してくる弟妹の保育対応を行いました。(表3-11)

表3-11 弟妹預かりの実績

種別	人数(人)	回数(回)	利用実人数(人)	利用のべ人数(人)
令和6年度	17	379	16	379
前年度	12	136	9	136

### (11) 地域対応

<幼稚園・保育園・こども園巡回訪問>

- ・保護者の了解を得て、併行通園のお子さんの幼稚園・保育園・こども園に訪問し、お子さんの様子を確認すると共に情報交換を行いました。

<幼稚園・保育園・こども園、学校への引き継ぎ>

- ・保護者の了解を得て、来年度就学するお子さんの支援級、養護学校との引き継ぎを行いました。来年度幼稚園・保育園・こども園に入園予定のお子さんの引き継ぎはありませんでした。

<交流保育>

- ・併行通園の経験がないお子さんが公立保育園に赴き保育園児と交流を行っています。

### (12) 実習生、研修生の受け入れ

<保育実習生>

	期間	受入先	受入人数
1	8/26-9/10	鎌倉女子大学短期大学部	2
2	9/17-10/3	東洋英和女学院大学	1
3	10/21-11/1	洗足こども短期大学	1

<看護学生>

	期間	受入先	受入人数
1	5/8・5/9	市立看護専門学校	4
2	5/28・5/29	市立看護専門学校	4
3	6/18・6/19	市立看護専門学校	4
4	9/3・9/4	市立看護専門学校	4
5	10/16・10/17	市立看護専門学校	4
6	11/6・11/8	市立看護専門学校	4
7	2/8	神奈川衛生学園専門学校	4
8	2/15	神奈川衛生学園専門学校	4
9	2/16	神奈川衛生学園専門学校	4
10	2/22	神奈川衛生学園専門学校	5
11	2/29	神奈川衛生学園専門学校	4
12	3/1	神奈川衛生学園専門学校	4
13	3/7	神奈川衛生学園専門学校	4

<その他>

	期間	受入先	受入人数
1	5/31	自衛隊病院研修医	2
2	7/24	筑波大学付属久里浜特別支援学校	7
3	7/25	フォローアップ研修	7
4	7/28	フォローアップ研修	3
5	8/2	自衛隊病院研修医	2
6	8/22	筑波大学付属久里浜特別支援学校	7
7	8/30	自衛隊病院研修医	2
8	9/20	自衛隊病院研修医	2
9	11/21	横須賀市障害関係施設協議会きりんグループ	2
10	11/28	横須賀市障害関係施設協議会きりんグループ	2

## 4. 管理部門

### (1) 療育相談センターの財政

横須賀市療育相談センターは、横須賀市からの指定管理料により運営されています。  
令和6年度の決算内訳は、人件費約4億5500万円(81.4%)、事務費6,450万円(11.5%)、事務管理経費約3,050万円(5.5%)、事業費約870万円(1.6%)計約5億5,870万円でした。

### (2) 送迎業務（通園バスおよび福祉車両運行）

通園送迎バスとして、小型マイクロバス3台、乗降装置を装備した福祉車両1台を民間会社に委託して運行しました。バスは市内を3つのルートに分け、各ルートに運転手の他、通園担当職員と非常勤添乗員を配置し、お子さんを安全に送迎することを心がけました。また、福祉車両には通園担当職員と非常勤看護師を配置し、医療的ケアの必要なお子さんを安全に送迎することを心がけました。

通常運行の他、保護者参加日、遠足等の行事や、お子さんの保護者を対象とした養護学校の見学会等においても運行を行いました。

ア. 基本運行時間 午前便 8:50~10:00 午後便 14:30~15:40

- イ. 運行ルート
- i. ひまわり号（追浜方面）
  - ii. めろん号（浦賀方面）
  - iii. さくら号（林方面）各車両乗車定員25人
  - iv. うさぎ号（利用児自宅近隣までの送迎）車両乗車定員8人

### (3) 給食業務

通園利用児に給食を提供しました。調理業務は民間会社に委託し、療育相談センター栄養士は献立作成、特別食の指示、栄養相談などを行いました。

#### 通園給食実施状況（表4-1）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	15	21	23	22	11	19	22	23	17	19	18	10	220
幼児食	478	669	660	689	359	597	707	608	495	635	573	326	6,796
指導食	431	574	540	573	297	521	593	515	453	505	514	286	5,802
保護者・研修生等	19	51	16	15	16	69	24	12	2	7	29	2	262
検食・保存食	30	42	46	44	22	38	44	46	34	38	36	20	440
食数合計	958	1,336	1,262	1,321	694	1,225	1,368	1,181	984	1,185	1,152	634	13,300

#### ① 特別形態食について

幼児食の他に4種類の形態を用意し、口腔機能の発達に合わせた食形態を提供しました。また、食物アレルギーのお子さんへの個別対応を行いました。

<食形態区分>（年間のべ人数）

##### i) えんげ食

口から食物摂取を始める初期段階のお子さんを対象とした食事です。  
主食は、粒なしのおかゆゼリー、主菜・副菜はすべてミキサーにかけ、粒のないなめらかなペースト状で提供しました。  
また、水分補給用にお茶ゼリーを提供しました。

##### ii) 押しつぶし準備食（1人）

舌を上下に動かし押しつぶす練習をする時期のお子さんを対象とした食事です。  
主食は、粒ありのおかゆゼリー、肉・魚のムースを使用し、野菜等はなめらかなマッシュ状で提供しました。

### iii) 押しつぶし食

押しつぶし機能獲得の時期のお子さんを対象とした食事です。  
主食は、全粥。肉・魚のムースを使用し、野菜等は1cm角に切って圧力鍋でやわらかくし、舌と上あごで押しつぶして飲み込めるように調理して提供しました。

### iv) そしゃく食

そしゃく機能獲得の時期のお子さんを対象とした食事です。主食は、軟飯、肉はやわらかく調理し、魚や揚げ物は一口大に切り、とろみのあんをかけて噛みやすく、まとまりやすいように調理しました。

また、野菜等は圧力鍋を使用して、歯ぐきでつぶせるくらいのやわらかさに調理して提供しました。

以上4種類の食形態を提供しましたが、状態に応じて個別対応をしました。

### <アレルギー対応>

医師の診断書等に基づき、除去食・代替食品で対応しました。卵除去  
えび、かに、ごま、卵、乳除去、乳・小麦除去、納豆除去

### <偏食対応>

偏食や味覚の過敏等で、給食を食べることが難しい場合、主食は代替対応しました。

## ③ 行事食

季節ごとに旬の食材を取り入れ、季節感を感じられるような献立にしました。行事食は、クリスマスなどに提供しました。

## ④ 保護者への対応

### <保護者参加日>

年に2回(6月・11月)の保護者参加日に、給食提供を行いました。令和6度はお子さんのみ給食提供を行いました。

### <試食会>

各クラス年に1回、試食会を実施しました。

### <献立表>

月に1回、翌月の献立をお知らせしました。また、献立の給食のレシピを自由に参考にしてもらえよう、ひまわり園のラウンジに掲示しました。

### <その他>

昼食中に各クラスを回り、保護者(親子通園)からの意見や感想等を伺いました。

## ⑤ 栄養相談実施状況

### <摂食外来>

月2回行われる摂食外来において、適切な食事量・水分量・特別形態食の調理などの相談を行いました。

### <個別相談>

アレルギーの除去食や特別形態食の調理法など、保護者の要望により、個別の相談に応じました。

## ⑥ その他

### <保護者勉強会>

「”食べること”に配慮した給食の工夫」をテーマで行いました。

### <給食委員会>

給食の摂取状況を把握し、通園利用児の食事の嗜好や栄養への配慮、メニューの工夫など、適切な給食提供のために、月1回開催しました。

### <給食アンケート>

試食会の時に、保護者の方々に給食に関するアンケートを依頼しました。結果は、給食業務の参考としました。

#### (4) 運営協議会

療育相談センターの円滑な運営を行うことを目的とし、横須賀市、保育・教育関係施設、センター利用児保護者、学識経験者等17人の委員で構成される運営協議会を平成20年度に設置しました。

令和6年度は7月、2月の年2回開催しました。主な内容として、療育相談センター令和5年度の事業報告及び令和6年度の事業計画等についての報告を行いました。

#### 委員の構成

	委員の所属	人数
1	横須賀市健康福祉センター代表	1
2	横須賀市児童相談所代表	1
3	福祉こども部代表	1
4	保育園関係者（公立・私立）	2
5	幼稚園関係者	1
6	センター児童発達支援センター 通園児保護者代表（福祉型・医療型）	2
7	センター診療所外来利用児保護者代表	1
8	障害者施策検討連絡会代表	1
9	学識経験者	2
10	教育委員会代表	1
11	地域代表	1
12	センター苦情解決・第三者委員	1
13	センター所長、園長	2
	合計	17

#### ① 第1回運営協議会

- ・日 時 令和6年7月24日（水）10:30～12:00
- ・場 所 横須賀市療育相談センター4階 生活訓練室
- ・出席者 19人（委員13人、オブザーバー3人、事務局3人）
- ・内 容 令和5年度事業報告  
令和6年度事業計画

#### ② 第2回運営協議会

- ・日 時 令和7年2月19日（水）10:30～12:00
- ・場 所 横須賀市療育相談センター4階 生活訓練室
- ・出席者 21人（委員15人、オブザーバー3人、事務局3人）
- ・内 容 令和6年度上半期事業報告

#### (5) 苦情解決

社会福祉法第82条の規定により、当センターでは利用者からの苦情に適切に対応する体制をとっています。

当センターにおける苦情解決責任者、苦情受付担当者及び第三者委員を下記により設置しています。

#### 令和5年度委員等構成

- 苦情解決責任者 広瀬 宏之（横須賀市療育相談センター所長）  
苦情受付担当者 瀧澤 建（横須賀市療育相談センター管理課長）  
第三者委員 前田 幾代（社会福祉法人 海風会 評議員）  
第三者委員 後藤 博行（社会福祉法人 横須賀たんぼぼの郷 わたげ施設長）

(6) 管理部門研修参加

	研修名	参加人数
1	社会福祉法人青い鳥 栄養士専門部会（計57回）	5
2	社会福祉法人青い鳥 管理職研修「人事考課制度」他（計3回）	12
3	社会福祉法人会計の実務 月次編	2

## 5. その他

### (1) 学会発表、講演、論文

#### ①学会・シンポジウム

広瀬宏之 ADHD 薬物療法のコツ 第66回日本小児神経学会学術集会ランチオン・セミナー 名古屋 令和6年6月1日

広瀬宏之 発達支援あれこれ～これからの支援と現場でのコツ 日本小児精神神経学会 第35回研修セミナー つくば 令和6年6月22日

広瀬宏之 笑顔を目指す発達支援 これからの支援の在り方について 日本発達系作業療法学会 第13回学術大会 基調講演 東京 令和7年3月15日

#### ②講演（横須賀市内のみ）

広瀬宏之 発達障害の理解と対応のコツ 横須賀市保育会保育運営研修 横須賀市 令和6年6月27日

広瀬宏之 医療機関との連携 令和5年度 国立特別支援教育総合研究所 第1期 特別支援教育専門研修 令和6年7月11日

広瀬宏之 発達障害の理解と支援のコツ 横須賀市発達支援コーディネーター研修 横須賀 令和6年9月18日

#### ③論文・著作

広瀬宏之 学会の役割と使い方 小児の精神と神経 64(1):69-71, 令和6年.

広瀬宏之 自閉スペクトラム症 最新ガイドライン準拠小児科診断・治療指針 改訂第三版（加藤元博編） p.899-903 中山書店、令和6年

広瀬宏之 発達支援あれこれ～これからの支援と現場でのコツ 小児の精神と神経 64(3):215-222, 令和6年.

広瀬宏之 神経疾患・精神疾患・障害がある子どもへの対応 改訂1版 最新保育士養成講座第7巻 子どもの健康と安全（『最新 保育士養成講座』統括編纂委員会編） p99-103, p189-193 全国社会福祉協議会 出版部、令和6年

## (2) 所内研修

### ①横須賀市療育相談センター職員全体研修

令和6年度職員全体研修を実施し職員全体のスキルアップを図りました。

表5-1

実施日	研修内容	講師（敬称略）	実施場所	受講者数
5月21日	「横須賀市療育相談センターのこれからの支援の方向性（&虐待防止研修）」	横須賀市療育相談センター 所長 広瀬 宏之	横須賀市療育相談センター	57
7月16日	「障害者スポーツの理解とポッチャの体験」	神奈川ポッチャ協会 川崎 妙子	横須賀市療育相談センター	38
11月19日	「子どものLGBTの支援について」	岡山大学大学院保健学研究科 教授 中塚 幹也	横須賀市療育相談センター	46
2月18日	「子どもの偏食の対応について」	Hakosoudan 管理栄養士 藤井 葉子	横須賀市療育相談センター	49
			受講者合計	190

### (3) 視察・見学者等の受入れ状況

他都市及び関係機関からの依頼により視察・見学者等を受入れ、施設の案内、業務の説明等を行いました（表5-3）

受入れ延べ件数(件) 71

視察・見学者延べ人数(人) 239

表5-3

	受入日	受入先	受入人数
1	5/8	市立看護専門学校実習生	4
2	5/9	市立看護専門学校実習生	4
3	5/28	市立看護専門学校実習生	4
4	5/29	市立看護専門学校実習生	4
5	6/17	言語聴覚士実習生（武蔵野大学）	1
6	6/18	市立看護専門学校実習生	4
7	6/19	市立看護専門学校実習生	4
8	7/9	横浜市中部地域療育センター理学療法士見学	1
9	7/17	自衛隊病院研修医見学	2
10	7/23	市内相談支援事業所職員見学	25
11	8/2	ひまわり園見学会	47
12	8/8	鎌倉女子大学学生見学	4
13	8/26	鎌倉女子大学短期大学部実習生	2
14	8/28	鎌倉女子大学短期大学部実習生	2
15	9/3	市立看護専門学校実習生	4
16	9/4	市立看護専門学校実習生	4
17	9/4	自衛隊病院研修医見学	2
18	9/4	鎌倉女子大学学生見学	5
19	9/5	鎌倉女子大学学生見学	2
20	9/17	東洋英和女学院大学実習生	1
21	10/11	川崎西部地域療育センター職員見学	2
22	10/16	自衛隊病院研修医見学	2
23	10/16	横浜中部地域療育センター職員見学	1
24	10/16	横須賀市立看護専門学校実習生	4
25	10/17	横須賀市立看護専門学校実習生	4
26	10/21	洗足こども短期大学実習生	1
27	10/21	洗足こども短期大学学生実習	1
28	11/6	横須賀市立看護専門学校実習生	4
29	11/8	横須賀市立看護専門学校実習生	4
30	11/27	自衛隊病院研修医	2
31	12/4	施設間交流研修	1
32	12/9	跡見学園女子大学学生見学	1
33	12/10	放課後等デイサービス sora職員見学	2
34	1/15	自衛隊病院研修医見学	2
35	1/20	施設間交流研修	1

	受入日	受入先	受入人数
36	1/24	ソーシャルワーカー専門部会見学	7
37	1/24	大塚台小学校引継ぎ来所	2
38	1/27	栗田小学校引継ぎ来所	1
39	1/30	神奈川衛生学園専門学校実習	5
40	2/6	神奈川衛生学園専門学校実習	4
41	2/12	田戸小学校引継ぎ来所	1
42	2/13	豊島小学校引継ぎ来所	1
43	2/13	神奈川衛生学園専門学校実習	5
44	2/14	神奈川衛生学園専門学校実習	4
45	2/14	大楠小学校引継ぎ来所	1
46	2/17	高坂小学校引継ぎ来所	2
47	2/17	長井小学校引き継ぎ来所	1
48	2/19	逸見小学校引継ぎ来所	2
49	2/20	夏島小学校引継ぎ来所	1
50	2/20	神奈川衛生学園専門学校実習	4
51	2/21	浦郷小学校引継ぎ来所	1
52	2/25	施設見学（障害福祉業界を学ぶしごと体験プログラム）	1
53	2/26	施設見学（障害福祉業界を学ぶしごと体験プログラム）	4
54	2/26	自衛隊病院研修医見学	2
55	2/26	諏訪小学校引継ぎ来所	1
56	2/26	津久井小学校引継ぎ来所	1
57	2/27	施設見学（障害福祉業界を学ぶしごと体験プログラム）	5
58	2/28	施設見学（障害福祉業界を学ぶしごと体験プログラム）	5
59	2/28	城北小学校引継ぎ来所	1
60	3/5	通園公郷小学校引継ぎ受け入れ	2
61	3/6	通園野比東小引継ぎ	1
62	3/6	通園長浦小学校引継ぎ	1
63	3/7	通園いずみ武山支援学校引継ぎ受け入れ	2
64	3/10	通園そら・つばさ武山支援学校引き継ぎ受け入れ	2
65	3/10	通園久里浜特別支援学校引継ぎ受け入れ	1
66	3/11	通園船越小学校引継ぎ	3
67	3/11	通園そら・つばさ山崎小学校引継ぎ受け入れ	1
68	3/11	通園ほし市立聾学校引継ぎ受け入れ	2
69	3/12	通園つばさ神明小学校引継ぎ受け入れ	1
70	3/12	通園いずみ・つき根岸小学校引継ぎ受け入れ	1
71	3/13	通園鴨居小学校引継ぎ	2

## III. 資料編



## 社会福祉法人 青い鳥 の沿革

(◇は旧青い鳥法人関連の事項)

昭和41年 (1966年)	9月	財団法人「子どもたちの未来をひらく父母の会」(サリドマイド児の親の団体)からの寄付金を基本財産として、心身障害児の早期発見、早期療育および社会啓発を事業目的とする財団法人「神奈川県児童医療福祉財団」を設立。  理事長村山午朔(元神奈川県衛生部長)、専務理事飯田進。
昭和42年 (1967年)	1月	初代理事長村山午朔逝去。
	2月	飯田進理事長就任。
	6月	県・横浜市からの建設費補助等により、横浜市磯子区汐見台に、財団第一期事業として、当時の児童福祉法上、認められていなかった就学前障害児のための無認可通園施設「青い鳥愛児園」を開設。
昭和43年 (1968年)	6月	県・横浜市・日本自転車振興会等の建設費補助により、横浜市神奈川区西神奈川に、財団第二期事業として全国の親の会等諸団体の要望が強かった障害児の療育機関「小児療育相談センター」を開設。和泉成之博士(元長崎大学学長)初代所長に就任。「青い鳥診療所」「精神衛生相談室(現「心理相談室」)」「福祉相談室」同時にスタート。  「心身障害児巡回等相談事業」開始(県民生部委託事業)。県域幼稚園・保育園(全体700園の約14%)からの要請により1園あたり年2~3回、ソーシャルワーカーによる巡回相談を実施し、保育現場とともに障害児統合保育実践を推進。  小児療育相談センター内に「検診事業部」を設置し、県域の幼児(5歳児)を対象とする「小児心臓疾患巡回検診事業」開始(県衛生部委託事業)。
昭和44年 (1969年)	9月	3歳児健康診査の未受診児を対象とする「幼児巡回健康診査事業」開始(県衛生部委託事業、3歳児健診システム変更のため昭和51年で終了)。
昭和45年 (1970年)	5月	幼児(5歳児、のち4歳児に年齢変更)を対象とする「視聴覚異常児発見事業」開始(県衛生部委託事業)。併せて小児療育相談センター内で要精密検査児を対象とした眼科・耳鼻科の診療(週1回)を開始。
昭和46年 (1971年)	4月	小児療育相談センター内に「調査研究室」を設置。厚生省委託研究その他の調査研究にあたる。
昭和47年 (1972年)	4月	養護学校の全国的な整備に伴い、「青い鳥愛児園」が児童福祉法上の精神薄弱児通園施設として認可される。
昭和48年 (1973年)	10月	電機連合神奈川地方協議会内に障害福祉委員会が設置される。財団よりソーシャルワーカー出向、組合内の障害児をもつ家族、障害者組合員の相談と組合員相互扶助活動の推進を担当(平成6年の社会福祉法人「電機神奈川福祉センター」発足まで継続)。
	4月	診療相談部門に新たに「地域対策室」を設置。従来の巡回相談事業のほかに、成人障害者の就労援助活動の強化にあたる。
昭和49年 (1974年)	4月	横浜市における「視聴覚検診事業」開始(市衛生局委託事業)。検診数約40,000人。
昭和50年 (1975年)	8月	「小児療育相談センター」所長和泉成之博士逝去。
	12月	療育指導誌「育つ」発行(年4冊発行、平成2年まで60冊で終了)。
昭和51年 (1976年)	1月	佐々木正美医師(児童精神科医)、小児療育相談センター所長に就任。

昭和52年 (1977年)	10月	療育情報誌「かざぐるま」発刊（県福祉部委託・隔月刊、年6回・2,800部）。
昭和53年 (1978年)	4月	川崎市親の会「川崎ひまわり父母の会」へソーシャルワーカー出向（昭和56年まで）。親・市民ボランティア・専門家、3者の連携による障害幼児コミュニティア活動の試行開始。
昭和55年 (1980年)	4月	心臓検診事業が県直轄地域の対象数の93%を把握。検診数約41,000人。
昭和56年 (1981年)	4月	「神奈川県地域療育システム推進事業（市町村コーディネーター養成事業）」受託。障害児とその家族の地域生活支援に携わる市町村関係者との共同研究および人材養成を開始（平成4年まで）。
昭和57年 (1982年)	4月	学校保健法の一部改正に伴い、学童の心臓検診に着手。
	5月	診療相談部門に「学習指導室」を設置。主に自閉症児の指導訓練にあたる。
	10月	川崎市内の県労働教育福祉センター内に、成人障害者の就労・社会自立のための「障害者生活援助センター」を開設。
昭和58年 (1983年)	12月	社会福祉法人「青い鳥」を設立（理事長飯田進兼任）。青い鳥愛児園の経営を財団より分離、同法人に移管。
昭和59年 (1984年)	8月	児童の健全育成を目的とした「子どもの心を育てるために」第1回研修会を開催（以後、年1～2回開催。平成8年の第25回で終了）。
昭和60年 (1985年)	4月	「横浜市保育所障害児巡回相談事業」（横浜市委託）開始。障害児統合保育推進のため年2回を原則として希望園を巡回（平成15年10月の「東部地域療育センター」開設まで継続）。
	5月	子育てのための通信講座「まいんど」発刊（隔月発行）。
	7月	小児療育相談センター検診事業部門の眼科診療を週1回から週3回に拡充。
	8月	◇ 横浜市の「障害児地域総合通園施設構想」にもとづく第一号施設「横浜市南部地域療育センター」が開設され、社会福祉法人「青い鳥」が運営を受託。初代所長佐々木正美医師。青い鳥愛児園は発展的に解消し、同施設内に吸収合併（旧青い鳥愛児園施設は障害者地域作業所等が利用）。
昭和61年 (1986年)	4月	川崎市における「視聴覚検診事業」開始。検診数約10,800人。
昭和62年 (1987年)	3月	医師、研究者等の協力により、療育指導誌「療育技法マニュアル」発刊（県福祉部委託・以後各年1集発行）。
	4月	「子育て事業室」を新設、機関紙「まいんど」の充実と子育てアドバイザーの養成に着手。
平成元年 (1989年)	3月	◇ 社福「青い鳥」理事長に田中信夫就任。
	4月	横須賀市における「視聴覚検診事業」開始。検診数約3,800人（県下全域の検診数約80,000人）。
	11月	横浜市自閉症児親の会が社会福祉法人「横浜やまびこの里」を設立。法人の施設開設準備に小児療育相談センターが人的・物的（会議室提供等）の支援・協力を行った。翌年7月、通所施設「東やまた工房」が開所し、施設長に元財団職員が就任。
平成3年 (1991年)	4月	川崎市川崎区において独自に実施していた障害者就労援助活動に対し、県および川崎市の補助金交付による「障害者地域就労援助センター」として正式発足（「障害者生活援助センター」と呼称、現「川崎南部就労援助センター」）。
		同時に、県および横浜市による補助金交付が確定し、横浜市神奈川区に「地域就労援助センター」発足（市内第一館目、現「横浜東部就労支援センター」）。

「地域就労援助センター推進事業」（県委託）を開始。県内就労援助関係者に就労援助技術を提供する研修を実施（平成10年まで、延べ800人が受講）。

10月 「自閉症児・者治療教育プログラム指導者養成講座」開催。米国ノースカロライナ大学TEACCH部職員を招聘し、県内の自閉症児者の療育や援助に関わる現任者訓練（4泊5日）と講演会を実施。翌年よりフォローアップセミナーとして研修会を毎年開催（平成13年まで）。

◇ 「横浜市南部地域療育センター」所長に金野公一医師就任。

平成4年  
(1992年) 4月 企業の人事担当者、養護学校進路指導担当教諭等による「障害者雇用システム研究会」（会員約40名）をスタート。障害者の雇用拡大を目的に、特例子会社設立援助等、企業支援に向けた月例の勉強会や企業向け啓発セミナーなどを開催（平成14年まで）。

平成5年  
(1993年) 4月 「地域育児センター機能強化推進事業」が県と市町村の共同事業として本格スタート。平塚市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、寒川町の4市1町で実施（翌年より伊勢原市が加わり、5市1町に）。

11月 特別シンポジウム「知的障害者の就労援助」を開催（パシフィコ横浜、参加者：全国の福祉施設・教育訓練機関・行政関係者等約500人）。横浜・川崎で始まった「障害者地域就労援助センター」の活動や全国の先進的実践について紹介・意見交換等。

平成6年  
(1994年) 10月 障害者の療育及び児童の健全育成等について幅広く事業が展開できるよう財団寄付行為の一部変更を行った（10月7日付認可）。

平成7年  
(1995年) 4月 通信講座「まいんど」を「ブックレットまいんど」に改編（年8冊発行、平成16年度まで80冊で終了）。

9月 「小児療育相談センター」所長に平田一成医師就任。

平成8年  
(1996年) 3月 学校保健法施行規則の一部改正に伴い、小・中・高の就学・進学段階で心電図検査を実施することになり、「県域5歳児心臓検診事業」および「学童心臓検診事業」が終了。

10月 ◇ 社福「青い鳥」が「横浜市中部地域療育センター」および「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」運営受託。中部地域療育センター初代所長に金野公一医師就任。

平成9年  
(1997年) 4月 「地域育児センター機能強化推進事業」が国の補助事業の導入によって「子育て支援センター事業」に発展、活動拠点の整備と人的体制を充実。

3歳児健康診査にもとづく視聴覚検診を県域25市町と横須賀市で開始（母子保健法施行規則の一部改正に伴い、県域4歳児検診が廃止になり、3歳児視聴覚検診に移行）。

◇ 「横浜市中部地域療育センター」所長に山崎扶佐江医師就任。

平成10年  
(1998年) 4月 「市町村ガイドヘルパー研修事業」（県委託）を開始（11年まで2年間）。その準備として県手をつなぐ親の会との共同調査「ガイドヘルプニーズ調査」を実施。

10月 財団と社福「青い鳥」の共催により「療育再考セミナー」を開催（かながわ労働プラザ）。全国各地から療育に携わる第一線のリーダー39人が集まり、「知的障害児の療育とはなにか」について討議。

◇ 「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」に在宅介護支援センター開設。

平成11年  
(1999年) 4月 「ファミリー・サポート・センター事業」（厚生労働省補助事業）を小田原市より委託を受けて開始。

9月 ◇ 「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が神奈川県より居宅サービス事業者（通所介護）の指定を受ける。

「療育再考セミナーⅡ」開催（かながわ労働プラザ）。前年に引き続き全国の療育関係者が、求められる視点、技術、生涯にわたるシステム論等を討議。

- 平成12年  
(2000年)
- 4月 ◇ 介護保険法施行により「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が居宅介護支援事業および通所介護支援事業を開始。
- 10月 心身障害児の早期発見、早期療育などの総合的な小児療育事業の貢献に対して「第52回保健文化賞（第一生命保険相互会社主催）」を受賞。
- 平成13年  
(2001年)
- 3月 ◇ 社福「青い鳥」理事長に飯田進就任。
- 4月 ◇ 地域療育センター機能を拡充し、専門スタッフの配置によって、就学後の継続的フォローと新たに問題が顕在化した児童の個別相談・支援を行う「横浜市学齢障害児支援事業(学齢前期)」開始（横浜市福祉局委託事業）。実施機関：各地域療育センター及びリハビリテーションセンター。
- 発達障害などの障害児の思春期（中学校期以降）に生ずる不適応、自傷、不登校等の問題行動に対処するため、本人、家族への個別相談・支援を行う「横浜市学齢障害児支援事業（学齢後期）」開始（横浜市福祉局委託事業）。実施機関：小児療育相談センター。
- 平成14年  
(2002年)
- 4月 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」（平成12年4月）にもとづく精神障害者の日常生活支援のための施設「横浜市港南区生活支援センター」を財団が運営受託（横浜市衛生局委託事業）。
- ◇ 「横浜市中部地域療育センター」所長に田野稔郎医師就任。
- 10月 ◇ 「横浜市中部地域療育センター」所長に原仁医師就任。
- 平成15年  
(2003年)
- 4月 ◇ 「横浜市南部地域療育センター」所長に飯田美紀医師就任。
- 9月 ◇ 社福「青い鳥」が「横浜市東部地域療育センター」の運営を受託。所長に日原信彦医師就任。
- 平成16年  
(2004年)
- 7月 ◇ 社福「青い鳥」が横浜市より指定管理者として指定を受け、3地域療育センター施設を引続き運営。
- 平成17年  
(2005年)
- 9月 病児・緊急預り支援の「緊急サポートネットワーク事業」（厚生労働省委託事業）を受託（平成21年3月、国の方針により終了）。
- 平成18年  
(2006年)
- 4月 「小児療育相談センター」所長に田野稔郎医師就任。
- 「鎌倉市子育て支援センター」が鎌倉市より指定管理者の指定を受ける（平成18～20年度）。
- ◇ 「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が横浜市より指定管理者の指定を受ける（平成18～22年度）。
- ◇ 「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が地域包括支援センター事業を開始。
- 10月 財団設立40周年・社福「青い鳥」設立20周年記念事業として記念シンポジウム「早期発見・早期療育のあゆみと展望～地域療育の今後を考える～」を開催、記念誌を刊行。
- 平成19年  
(2007年)
- 3月 診療相談部心理・言語相談室の言語部門と検診事業部内の耳鼻科を閉鎖。
- 6月 新設の「横須賀市療育相談センター」が横須賀市より指定管理者の指定を受ける。
- 12月 川崎市の民設民営施設「（仮称）川崎市西部地域療育センター」整備・運営事業者に決定。
- 平成20年  
(2008年)
- 1月 「川崎市発達相談支援センター」を開設（川崎区砂子、川崎市委託事業）。
- 3月 社会福祉法人として法人格変更を行うため、財団法人神奈川県児童医療福祉財団を解散。
- 4月 社会福祉法人「新生会」として発足。
- 「横須賀市療育相談センター」を開設（横須賀市小川町はぐくみかん内）。所長に広瀬宏之医師就任。

		検診事業部内の眼科を「小児眼科部」として診療部門を強化。
	6月	◇ 引続き3地域療育センターの指定管理者（平成21～25年度）に決定。
平成21年 (2009年)	11月	横浜市地域子育て支援拠点事業「鶴見区地域子育て支援拠点」の公募により、運営受託決定。
	3月	「鶴見区地域子育て支援拠点“わっくんひろば”」開所（鶴見区豊岡町）。
	4月	「鎌倉市子育て支援センター」が引続き指定管理者の指定を受ける（平成21～23年度）。
	6月	横浜市地域子育て支援拠点事業「磯子区地域子育て支援拠点」公募による運営受託決定。
	12月	青い鳥会館（旧青い鳥愛児園施設）の建替え工事着工。
平成22年 (2010年)	1月	「磯子区地域子育て支援拠点“いそピヨ”」開所（JR磯子駅前の複合ビル内）。
	3月	青い鳥会館 竣工。障害者地域作業所「いそご青い鳥」「青い鳥第二作業所」として、NPO法人アイ・アムに貸与。
	4月	「川崎西部地域療育センター」を開設（宮前区平）。所長に田野稔郎医師就任。
		「小児療育相談センター」所長に飯田美紀医師就任。 発達障害児・者の支援強化のため、小児療育相談センター内に「発達障害等支援対策室」を設置。
		◇ 「横浜市南部地域療育センター」所長に佐々木寧子医師就任。
		◇ 「横浜市南部地域療育センター」が児童デイサービス事業「はらっぱ」を開始（磯子区中原）。
	9月	引続き「横浜市港南区生活支援センター」の指定管理者（平成23～32年度）に決定。
平成23年 (2011年)	4月	◇ 「横浜市東部地域療育センター」所長に大屋彰利医師就任。
		◇ 「横浜市東部地域療育センター」が児童デイサービス事業「パレット」を開始（鶴見区鶴見中央）。
		◇ 「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が引続き指定管理者の指定を受ける（平成23～27年度）。
	5月	法人経営基盤の強化・効率性や本部機能の強化による療育事業等の安定的運営に向けて、「新生会」が存続法人となり社会福祉法人「青い鳥」を吸収合併する提案が理事会・評議員会において承認。
	8月	「発達障害児者支援フォーラム in 横浜～学齢期・思春期の本人、家族に必要な支援を考える～」を開催（関内ホール 大ホール、参加者：療育、福祉、学校等関係者約1,000人）。
	9月	臨時理事会・評議員会において「新生会」と「青い鳥」の合併契約書等、合併認可申請書が承認。
	12月	「新生会」と「青い鳥」との合併が認可される（法人名は「青い鳥」）。
		「磯子区地域子育て支援拠点“いそピヨ”」が「磯子区子育てサポートシステム事業」を開始。
平成24年 (2012年)	4月	合併後の新法人の経営管理と事業部門の機動的推進を行うため、法人本部機能を強化し、組織を再編して社会福祉法人「青い鳥」がスタート。飯田美紀理事長就任。
		「鎌倉市子育て支援センター」が引続き指定管理者の指定を受ける（平成24～28年度）。 「横浜市中部地域療育センター」が児童発達支援事業所「フルール」（旧児童デイサービス事業）を開設（中区山吹町）。

児童福祉法の改正に伴い「川崎西部地域療育センター」は、多機能型児童発達事業所（「福祉型児童発達支援センター」と「医療型児童発達支援センター」の併設）と、短時間療育の「児童発達支援事業所」、地域支援部門は「障害児相談支援事業所」「保育所等訪問支援事業所」として、指定を受け業務を開始。

	10月	「鶴見区地域子育て支援拠点“わっくんひろば”」で「鶴見区子育てサポートシステム事業」を開始。
	12月	「鶴見区地域子育て支援拠点」がプロポーザルを経て引続き5年間の受託決定（平成25～29年度）。
平成25年 (2013年)	2月	「川崎市発達障害地域活動支援センター」運営についてのプロポーザル公募に参加し、受託が決定。
	3月	昭和52年発行の療育情報誌「かざぐるま」（神奈川県委託事業）が県の委託終了に伴い、213号で終了。
	4月	「川崎西部地域療育センター」所長に柴田光規医師就任。 「川崎市発達障害地域活動支援センター」開設準備室を設置。 児童福祉法の改正に伴い、新たに指定を受けて次の事業を開始した。 ・横浜市3地域療育センター「福祉型児童発達支援センター」「医療型児童発達支援センター」「障害児相談支援事業」「保育所等訪問支援事業」 ・横浜市東部地域療育センター児童発達支援事業所「パレット」 ・横浜市南部地域療育センター児童発達支援事業所「はらっば」 ・横浜市港南区生活支援センター「地域相談支援事業」「計画相談支援事業」 ・横須賀市療育相談センター「障害児相談支援事業」「計画相談支援事業」
	10月	「川崎市発達障害地域活動支援センター ゆりの木」開所（麻生区上麻生）。 「横浜市東部・中部・南部地域療育センター」の平成26年度から5年間の次期指定管理者として、選定委員会の審査を経て選定された。
平成26年 (2014年)	3月	小児療育相談センター開設時（昭和43年）から続いた「在宅心身障害児検診相談事業」（神奈川県委託事業）が終了。
	4月	「横浜市中部地域療育センター」所長に高木一江医師就任。 小児療育相談センター小児眼科部において「視覚認知検査・トレーニングモデル事業」を開始。 「開成町ファミリー・サポート・センター」開設準備室を設置。
平成26年 (2014年)	9月	「開成町ファミリー・サポート・センター」開所。
	12月	「磯子区地域子育て支援拠点」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（平成27年～31年度）。
平成27年 (2015年)	1月	「第2回 発達障害者支援フォーラム in 横浜～ライフステージに応じた発達障害者支援をめざして～」を開催（横浜市教育会館ホール、参加者：療育、福祉、学校関係者約440人）。
	4月	「横浜市南部地域療育センター」所長に井上祐紀医師就任。
	9月	小児療育相談センターの長寿命化に向けた改修工事完了（第1期：平成23年度～第5期：平成27年度）

	10月	「秦野市子育て支援センターほけっと21にし」開所。
	12月	「茅ヶ崎市香川駅前子育て支援センター」開所。
		横須賀市療育相談センターは、平成28年4月1日より8年間の指定管理事業者として選定・承認。
平成28年 (2016年)	3月	横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザは、平成28年3月31日をもって事業撤退。
	8月	50周年記念展覧会「ひろげよう ぼくのつばさ わたしのつばさ展2016」
	9月	法人設立50周年記念式典
	10月	名誉顧問 飯田進 逝去
		「鎌倉市子育て支援センター」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（平成28年～33年度）。
平成29年 (2017年)	1月	「開成町地域子育て支援拠点（子育て支援センター、ファミリー・サポート・センター併設）」がプロポーザルを経て引き続き3年間の受託決定（平成29年～31年度）。
	2月	「第3回 発達障害者支援フォーラム 各ライフステージで大切なこと～発達障害者の就労に向けての支援～」を開催（新都市ホール、参加者：療育、福祉、学校関係者約600人）。
		「秦野市つどいの広場・ほけっと21ミライエ」開所。
	3月	「鶴見区地域子育て支援拠点わっくんひろば サテライト」開所。
		50周年記念誌を発行。
	6月	「横浜市東部地域療育センター」が「相談ルーム いろは」を開所（鶴見区鶴見中央）。
	12月	「鶴見区地域子育て支援拠点わっくんひろば」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（平成30年～34年）
平成30年 (2018年)	1月	横浜市東部地域療育センター「相談ルーム いろは」が新たに指定を受けて「障害児相談支援事業」を開始。
	4月	「横浜市東部地域療育センター」所長に有賀道生医師就任。
平成31年 (2019年)	2月	横浜市港南区生活支援センターが新たに指定を受けて「自立生活援助事業」を開始。
		「横浜市東部・中部・南部地域療育センター」の平成31年度から5年間の次期指定管理者として、選定委員会の審査、横浜市会の議決を経て指定された。
		「第4回 発達障害者支援フォーラム 地域で育ち、地域で暮らす発達障害児・者への支援～家族に寄り添い、地域とのつながり、社会へはばたけ！～」を開催（関内ホール、参加者：療育、福祉、学校関係者約454人）。
	3月	事業計画と財務計画が一体となった第一期中期経営計画（2019～2023年度）策定。
	9月	横浜市の視聴覚健診事業の対象年齢を4歳から3歳に引き下げて検査を実施。
	10月	「座間市子育て支援センター」が新たにプロポーザル方式となり5年間の受託決定（令和2～6年度）。
	11月	「磯子区地域子育て支援拠点」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（令和2～6年度）。
令和元年 (2019年)	11月	横浜東部就労支援センターが神奈川区神奈川に移転
	12月	「開成町地域子育て支援拠点（子育て支援センター、ファミリー・サポート・センター併設）」がプロポーザルを経て引き続き3年間の受託決定（令和2～4年度）。
令和2年 (2020年)	4月	「横浜市南部地域療育センター」所長に磯崎仁太郎医師就任。
		「横浜市東部地域療育センター」所長に高橋雄一医師就任。

		川崎西部地域療育センターが新たに指定を受けて「居宅訪問型児童発達支援事業」を開始。
	9月	「横浜市港南区生活支援センター」の指定管理者（令和3～12年度）として引き続き指定管理者選定評価委員会より選定された。
令和3年 (2021年)	2月	「第5回 発達障害者支援フォーラム これからの発達支援～10年後20年後の支援を見据えて」を開催(オンライン開催、参加者:療育、福祉、学校関係者約500人)。
	3月	「川崎市発達相談支援センター」・「川崎南部就労援助センター」が「川崎市複合福祉センターふくふく」内に移転
	4月	横須賀市療育相談センターが新たに指定を受けて「保育所等訪問支援事業」を開始。
令和4年 (2022年)	2月	横須賀市療育相談センターにて新たに「医療的ケア児の送迎事業」を開始。
	3月	「鎌倉市子育て支援センター」「南足柄市子育て支援センター」の運営受託を期間満了により終了。
	10月	川崎市より新たに「子ども発達・相談センター（きっずサポート）」における児童発達支援事業及び地域支援・連携事業の指定を受け、「たま」「みやまえ」の2事業所を開所。
令和5年 (2023年)	3月	「第6回 発達障害者支援フォーラム さまざまな発達特性をつなげ、活かし、誰もが自分らしく過ごせる社会にするために私たちにできること～療育、医療、教育、アートを通じて考える～」を開催(オンライン開催、参加者:療育、福祉、学校関係者約500人)。
		第二期中期経営計画（令和6～8年度）を策定。
	10月	「横浜市東部地域療育センター」が「児童発達支援事業所 わかば」を開所（神奈川区西神奈川）。
	12月	「横浜市東部・中部・南部地域療育センター」の令和6年度から5年間の指定管理者として指定された。 「横須賀市療育相談センター」の令和6年度から10年間の指定管理者として、指定された。

令和6年  
(2024年)

- 4月 「横浜市中部地域療育センター」所長に元田玲奈医師、就任。  
「横浜市中部地域療育センター」が「相談ルーム いろは大通り公園」を開所（中区曙町）。  
「横浜市南部地域療育センター」が「相談ルーム いろは金沢文庫」を開所（金沢区釜利谷東）。
- 10月 横浜市学齢後期障害児支援事業の受託により「横浜市学齢後期発達相談室 みなと」を開所（神奈川区西神奈川）。

## 社会福祉法人青い鳥 役員・評議員名簿

(令和7年4月1日現在)

### 【理事】

飯田	美紀	(福)青い鳥	小児療育相談センター所長
北田	幸三		弁護士
石渡	和実		東洋英和女学院大学名誉教授
谷内	徹	元(福)横浜市福祉サービス協会	理事長
浅野	史郎		元宮城県知事
廣瀬	宏之	(福)青い鳥	横須賀市療育相談センター所長
柴田	光規	(福)青い鳥	川崎西部地域療育センター所長
齊藤	勝敏	(福)青い鳥	事務局長

### 【監事】

小倉	正		公認会計士
園部	正一	元横浜市監査事務局財務監査部長	

### 【評議員】

長井	晶子	(福)久良岐母子福祉会	理事長
小椋	健生		横浜交通株式会社代表取締役、 横浜交通共同組合理事長
岸本	孝男	(福)ももの会	理事長
齊藤	毅憲		横浜市立大学名誉教授
長谷山	景子		横浜障害児を守る連絡協議会顧問
磯貝	康正	(公財)横浜市知的障害者育成会	法人本部長
小川	淳	(福)横浜市リハビリテーション事業団	顧問、 (福)県央福祉会統括施設長
藤井	尚美	神奈川LD等発達障害児・者親の会	にじの会

## 案内図



### 交通アクセス

- ★京浜急行：横須賀中央駅より徒歩約8分
- ★JR 横須賀線：横須賀駅より  
京急バス4分「大滝町」バス停  
京急バス5分「市役所前」バス停

社会福祉法人青い鳥  
横須賀市療育相談センター

## 事業概要

— 令和7年度版—

令和8年1月

編集・発行 社会福祉法人 青い鳥  
横須賀市療育相談センター  
〒238-8530 横須賀市小川町16番地  
(はぐくみかん内)  
電話 046(822)6741 (代表)  
FAX 046(823)1798  
ホームページ：<https://aoitori-y.jp/yokosuka-ryoiku/>